

新・内山

柳沼昭徳

登場人物

- 内山 ……京都市のある区役所の納税課勤務
- 相原さん ……まちづくり推進課の後輩
- 聡子 ……妻で伏見区役所の選挙担当
- しんすけ君 ……聡子の弟
- オカン ……母親
- 姉ちゃん ……姉
- 俊之さん ……義兄
- マリエ ……姉の娘
- ばあちゃん ……死んだ内山の祖母
- じいちゃん ……死んだ若かりし頃の祖父
- 伊藤さん ……住民税滞納中の若い来庁者
- 渡辺さん ……廃車証明申請に来た中年の来庁者
- 渡辺さんの妹さん
- 岩山さん ……区役所の若いアルバイト
- 大田さん ……区役所の中年のパート
- 坂井さん ……区役所の若いアルバイト
- 神楽師たち・異形の人々
- 中年の女 ……福島県のある被災地の住人
- オッサン ……僧侶姿の偽托鉢をする盗人
- 少女

プロローグ 「ああ」

舞台の後方には瓦礫が広がっている。

瓦礫の向こうは見通せない闇が広がっている。

ポット、車、大黒柱、サッシ、哺乳瓶、信号機、墓石、ベビーベット、車など、人々の生活の残骸が、ミキサーをかけられたように、ないまぜになって、それらが風雨にさらされている。

瓦礫の中から、制服姿に身を包んだ少女が現れる。中学生か高校生か定かでない。あたり一面に広がった瓦礫の中を歩きまわる。

舞台の前方には瓦礫を取り除いて作った、開けた場所がある。

瓦礫のない方から、笠をかぶった僧侶姿のオッサン（関西弁で住職の意）がやってきて、開けた場所に立ち、瓦礫を見渡す。

そこに女子生徒の姿を見とめ、手を合わせる。

オッサンがやってきた方向と同じ側から、物語の主人公である内山が現れる。

内山も、オッサン同様開けた場所から一面の瓦礫を見渡す。（内山には少女の姿は見えていない。）

内山は、恐る恐る瓦礫の方へ近付き、瓦礫と開け

た場所の境界に立つ。

そして、瓦礫の中へと足を踏み入れようとした時、咎めるはげにオッサンは、りんを一つ打ち鳴らし、経（「大悲咒」）を読み始める。

オッサン なむからたんのー 南無喝囉怛那。 とらやーやー 哆囉夜耶。 なむおりのやー 南無阿唎耶。 ほりよきちー 娑盧羯帝。
しふらやー 呬囉夜耶。 ふじさとほーやー 南無阿唎耶。 もこきとほーやー 娑盧羯帝。
えんきはらはえい 唵薩皤囉罰曳。 しゆたのーとんしやー 數怛那怛寫。 なむしきりー 南無悉吉懾。 といもー 埤伊蒙。 おりのやー 阿唎耶。
ほりよきちー 娑盧吉帝。 しふらーり 室佛囉憍駄婆。 なむのらー 南無那囉。 きじきりー 謹墮醯利……

するとオッサンの読経に呼応するように、かつて、内山の恋人だった相原さんが闇の中から現れる。

内山 あ

相原さん ……

相原さんは、塚のように積み重なった瓦礫の山のつよによじ上りはじめる。
不安定に重なった瓦礫たちは、足をかけることに不吉に崩れ、そのたびに相原さんは足をとられ、よろめく。

オッサン もこほどーしやみさぼー …… 摩訶皤囉沙咩薩婆。 おとしよしゆべん 阿他豆輸朋。 おしゆいん 阿逝孕。
さぼとー 薩婆薩哆。 もほやー 那摩婆伽。 もほてちよー 摩訶特豆……

オッサンは、経を読み続ける。

よろめきながらも、かろうじて滑落を免れながら瓦礫の山をよじ登る相原さんを見ている内山が声をあげる。

内山 あー……あああー……わ、わ、わ……あーやば、

やばいやばい……まじかおい、あーあーあー、アカンてアカンて、逃げろ、逃げろ、ああ、ああ……

内山が相原さんを見ていると、瓦礫の向こうから妻だった聡子が現れる。
そして、極めて不機嫌そうに瓦礫を乗り越えながら、内山の方へやってくる。

聡子 なあ

内山 ああー……

聡子 なあ

内山 ああー……

瓦礫の縁に立って、聡子が怒鳴る。

聡子 なあて！

内山が聡子に気づき、オッサンは読経を止める。

内山 ……はい。

聡子 何回も見んといて、趣味悪い。

内山 ……

聡子 ……静かにして、疲れてんのやけど。

不機嫌な聡子に、内山が応える。

内山 ああ

と。

内山は相原さんの方を見る。
しかし、そこには誰もいない。

内山を、少女は見ている。

オッサンはりんを打ち鳴らす。

1幕 旧・内山

1場 内山と……

① 区役所

そこへ、瓦礫の向こうの間から、伊藤さんがやってくる。

そして、瓦礫群の中から椅子を二つ拾い、内山の立つ開けた場所にやってきて、そして椅子を置き、座る。

もう一つの椅子に、内山が腰掛け、二人は対面する。

内山はゆっくりと回想しはじめる。

伊藤さん どう？

内山 ええ……と、無理じゃないか、と……

キーボードを叩きながら、スーツ姿の内山が言う。

伊藤さん え……

内山 ええ、無理ですね。

伊藤さん えー……

と言って、伊藤さんが盛大にうなだれる。

内山、ある約束の時間を少し気にして、時計を見る。

そして、慣れてはいるが、それを悟られない巧みさで伊藤さんを気遣う

内山 あ伊藤さん？ 伊藤さん

伊藤さん ……

内山 大丈夫ですか伊藤さん

伊藤さん ちよつと

突如体を起こして伊藤さん

内山 はい

伊藤さん 名前連呼すんなや、恥ずかしいっ

内山 あはい

伊藤さん ええわ、もうほんならそっちでなんとかして

内山 すいません、ならない、ですね

伊藤さん ……

内山 もう決定ね、出てますんで

伊藤さん あんな、なんかで見ただけど、あれ、分割できるんやろ？

内山 ああ

伊藤さん やって、それ

内山 それが

伊藤さん おう

内山 もう少しね、お早い段階でお越しいただいていたら確かにできたんですが

伊藤さん おうだから、やって、それ

内山 ……

伊藤さん なに？

内山 ええと……従来でしたら、ご相談は受け付けてます。

前年度の所得にしたがって税額は変わってまいりますので、なんらかの形で仕事を失われたり、営業所得のみで生活されている方の場合、今年度の収入によっては支払いが困難な方もいらっしゃいますので、場合に依りて、ご相談という形を取らせていただいています。

伊藤さん ……

内山 ええ。

伊藤さん ああ

内山 大丈夫ですか、ここまで。

伊藤さん 大丈夫や、うん

内山 しかしですね、伊藤さんの場合、こちらから何度かご連絡させていただいてました通り、こういう窓付きの封筒でご連絡した通り、督促を送付させていただきましたが、ご覧になりました？

伊藤さん 開けてへんわ、そんなん

内山 なるほど。

ですが、こちらとしましては、その封筒、こういう窓付きの封筒をご覧になった段階で、伊藤さんからなんらかのご連絡をお待ちしてた次第です。

伊藤さん ああ、おう

内山 中にね、入れさせてもらってたんです「分納も可能ですのでご相談ください。」っていう紙。封筒、こういう

伊藤さん 窓付きのやつやろ？ 何回言うねん。

内山 ご覧に

伊藤さん なってないわ

内山 ですよ、ですから結果的にですね、こちらとしましてはこうした手段を取らざるを得ないという、ね？ 申し上げますにいくいんですけど。

伊藤さん おう、来たやん。だから

内山 ええ、ですが残念ながら、決定出ると覆らないんですね

伊藤さん ないわあ……

内山 はい

伊藤さん ない（笑いだす）

内山 ……

伊藤さん ないわあ……いや、ま、ね？ こんな事言うとかあれやけど、まっ、ほら、俺あれやん、なんて言うか、失業

内山 ああ

伊藤さん ほら、しちやってんだわ

内山 ああ

伊藤さん 十二月に

内山 ああ

伊藤さん 失業

内山 ああ

伊藤さん してるやろ？

内山 ああ、そうなんですか

伊藤さん そうなんですわあ

そこに、伊藤さんの携帯電話が鳴る。
電話の主である、内山の義弟のしんすけ君が呼び出し音に合わせて口ずさむ

しんすけ君 へひとつひとよによかちんちん、ふればふるほどよかちんちん、みればみるほどよかちんちん……

伊藤さん ……

伊藤さん 恐る恐る携帯電話を取り出して、ディスプレイを見て静止する

しんすけ君 へよじればよじるほどよかちんちん、いじればいじるほどによかちんちん、むけべむくほど……

内山 あ、どうぞ

伊藤さん ……

伊藤さん、電話をしまう。

ズボンのポケットの中で着信音が鳴り続けている。

内山 え？

しんすけ君、苦笑して

しんすけ君 おう……あいつ……

伊藤さん ええねん、えっと、あれいつやった？

内山 えー七日ですね

伊藤さん まだに払えでしょ？

しんすけ君 どうも野崎です。いつもありがとうございます。

えー……至急お電話、ね？ お待ちしていますねえ。

伊藤さん あー……

しんすけ君、電話を切って

しんすけ君 ……やってくるやん。

内山 あの、ですね？ これ預金差押になりますんで、自動的に預金口座ですね、ええそちら様の場合でしたらこの？
新潟信用金庫の口座から引き落とされます。

伊藤さん 七日に

内山 ええ七日に

伊藤さん ないわあ……あつ

て言うかて言うかて言うか、七日の時点で口座にお金ない場合はどうなの？

内山 ああ

伊藤さん 仮に七日までに預金全部引き出したら

内山 ああ、ですから、銀行からも連絡がいつてると思います
が、差し押さえになると、もう引き出せなくなってしまう
んですよ

伊藤さん これを？ この二十六万えー

内山 二十六万飛んで三〇〇円

伊藤さん 無いわー

内山 ですね

伊藤さん 分割、ホンマにできひんの？

内山 ええ、何度も申しますように、もう少し早い段階でご相談
いただいてたらこちらとし

伊藤さん 何度申すねんっ

内山 え、ああ、はい

伊藤さん 無いわあ……

内山 ああ

伊藤さん こらっ！

内山 え

伊藤さん それやめろや

内山 ああ、え？

伊藤さん それやつ、その「ああ」っちゅうヤツやめろッ、て
言うか、ああってなんやねん、さつきからああ、ああって
それはどういう類のああやねん

内山 ええと、はい

伊藤さん だから、失業したけど、何も自分から辞めとって辞
めたわけちゃうっちゅうねん。会社、会社が悪いねん

内山 なるほどはい

伊藤さん 悪いのは会社なん。

知ってるやろ？ 「ライフドウ」って会社。例の。

内山 ええ

伊藤さん 知ってるの？

内山 いえ

伊藤さん 二条の駅前に事務所置いてる会社。

内山 はい

伊藤さん これホンマの話。会社、あるん。

おじいおばあ相手の、詐欺まがいの商品売りつける催眠
商法ってやつやってたんですよ、聞いたことあるでしょ？
催眠商法

内山 ああ

伊藤さん ねえ知ってるやろ？

内山 いえ

伊藤さん 商店街にあるやん、空き店舗に突如現れるイマイチ
何売ってるか分からん店、健康食品とか電磁治療器の販売
やってる店、なあ？ 見たことあるやろ。

俺、そこでね働いてたんですよ、大学のセンパイに誘わ
れて。

内山 なるほど

伊藤さん これでも苦労してんねん。

新潟の実家貧乏やったから、大学の学費も自分で稼いで
たん。一五〇万円……年間一五〇万やで、一五〇万

内山 ああ

男は熱弁を振るう。

内山は態勢を崩すこと無く話を聞いている。

伊藤さん きつい解体の日雇いやってたんやけど学校行きな

がら一五〇万きついやん？

そやからセンパイに紹介してもらったのがライフドゥ
いう会社で、いや俺もそんなアホと違うから、あ、これ詐
欺やな、いうのは分かるよ。

店入ったら、丸椅子に座ったぎょうさんのおばあちゃん
相手にね、ハチマキ巻いた僕ぐらいの年の若い男が「イー
スト無添加食。パン一斤五〇円っ」「化学調味料無添加だし
の素一〇〇円っ」てやってんの「先着五名様っ」言うて。
ほんならね、棺桶に片足突っ込んだヨボヨボのおばあちゃ
んが「はいっ！」言うて、もう、なんて言うか生氣取り戻
したみたいな顔で「はいっはいっはいっはいっはいっ！」
て手挙げとんねん。
すごない？

伊藤さん 俺なんか、なんか感動したっていうか圧倒されたわ
け、もちろん詐欺やいうのは分かってんねん。最後になっ
たら六五万もするマッサージチェア出てくんねん、分かっ
てんねん、でもなんかおばあちゃんらに圧倒されて生まれ

て初めてああいう、ああいうガチな空気にやられてつい、
でも俺って、こんなんやん？

内山 え

伊藤さん こんなんやろ？

内山 ああ、ええ。

伊藤さん どんなんやねん？

内山 いや

伊藤さん いや分かってんねん。こんなどんくさい感じするや
ろ？ 食パン一斤五十円ってタイプちゃうやろって、もっ
さり系やしなっつて、お前マンツーマンでじっくり口説く系
やなっつて、それで、それであるおばあちゃんについてん。
榎原恵美子さんいう八十二歳のおばあちゃん。

内山のデスクの電話が再び鳴る

内山 あごめん田島さん電話取ってくれる？

「ああ、はい」と同僚が応える。

伊藤さん そうそうそう榎原恵美子さん。聞いたら三条口のアパートで一人で暮らしてて、いや四条？ 五条？ 七条？ まあなんか話し相手？ いないとかで、騙されてんの知らんと毎日毎日ね、「伊藤くんいてはる？」言うて来てくれるん。

なんか素敵やん？

内山 はあ

伊藤さん 素敵やん……ていうか、俺正直あんまりこれまでそんなガチで「いてはる？」なんか……「い・て・は・る？」やで？ ……素敵やん？

内山 ええ

伊藤さん 「伊藤くん昨日パンとほうれん草安うで売ってくれてお金浮いたしこれあげる」言うてビニール袋いっぱい生のイワシ持ってきてくれてん。イワシなんかよう触れへんし棄ててもうたけど、素敵やん。

ほんで買うって言うねん。椅子。六五万。「伊藤くん言うてくれはんのやったら、その椅子うち買うたる」言いよんねん。手なんかこうやって握ってやで？ 素敵やん？ 椅子持ってたわ。榎原恵美子さんの家。どこに椅子置

いていいか分からんくらいぐちゃぐちゃねん。何のために溜めてあるんか分からん週刊誌、女性自身の山のけて置いたわ。

「おばあちゃん、この「背中」って書いてあるボタン押してみ」言うて。

「なんか痛いわ、伊藤くんもんでくれた方がウチ気持ちええわ」言うて

「わかった、ほなこの「弱」って方にスライドさせてみ」言うて

「ああええ塩梅やわ、そやけどな、やっぱりウチ伊藤くんもんでくれたほうがええわ」言うて、言うてたらや、ぱたと来んようになってん。榎原恵美子さん。どうしたと思う？

内山 ……どう？

伊藤さん、机を手でパタンと打ち鳴らして。

伊藤さん まあ、あれやわ。去年の新聞見てみて。

内山 ああ

伊藤さん 椅子の上で死んでたんかもなあって……そっかあ
こういう仕事かあって、思っ……

しんすけ君 へひとつひとよによかちんちん……

再び伊藤さんの電話が鳴る。
伊藤さん、すぐさま携帯の画面を見る。

伊藤さん ……。

しんすけ君 へふればふるほどよかちんちん、みればみるほど
よかちんちん、よじればよじるほどよかちんちん、いじれ
ばいじるほどによかちんちん、むけむくほど……

内山 あ、どうぞ。

伊藤さん、しばらく間を置いて、恐る恐る電話に
出る。

伊藤さん はいい。

しんすけ君 おう伊藤くん。

伊藤さん あ

しんすけ君 「あ」と違うやん。

伊藤さん はい

しんすけ君 「はい」違うやん。

伊藤さん ……すいません。

しんすけ君 まずはそれやな。そして？ わざわざかけてきて
もらって？

伊藤さん ありがとうございます。

しんすけ君 そうやな、そう。

さつ、さあさあさあ、いつしよう。

電話をしている伊藤さんを視界に入れないように
して、内山、電話が終わるのを待っている。

伊藤さん えっと、ちよつと手違いで、なんか口座が差し押さ
えられてて。

しんすけ君 誰に。

伊藤さん 区役所に。

しんすけ君 そういうことな。

伊藤さん そうなんす。そうなんす。そうなんす。

しんすけ君 伊藤くんさあ、伊藤くん、つて言うかももう今から
ちんかす君やわ。

伊藤さん すいません

しんすけ君 なあちんかす君。どうにかならんの？

伊藤さん あつちよつと待ってもらえますか？

しんすけ君 もしもし？ もしもし？ もしもし？

し？（嫌がらせのように連呼する）

伊藤さん、受話部を押さえて

伊藤さん で分割って

内山 無理、ですね。

伊藤さん ああ……

（電話に戻り）あの、すみません

しんすけ君 めっちゃ待ったわ。体感二年ぐらいに感じたわ。

今どこにいて誰と喋ってんのちんかす君。

伊藤さん えっと区役所つす。

しんすけ君 どうしよう？

伊藤さん どうにもならなくて。困ってて

しんすけ君 困ってんのはこっちやわ

伊藤さん あつすいませんはい。

（内山に）なんとかさあ……

しんすけ君 ちよつとちんかす君、喋ってんのやし会話に集中

しようか。

伊藤さん あ、はい。

しんすけ君 今伊藤くん何かに腰掛けてる？

伊藤さん はい。

しんすけ君 俺立って喋ってんねん。

伊藤さん あすいません

しんすけ君 じゃあ立ち上がってもらて

伊藤さん あはい

伊藤さん、立ち上がる。

内山？

しんすけ君 まわり見渡してみて

伊藤さん あはい

伊藤さん、辺りを見渡す。

内山 ……

しんすけ君 人気のない所があるね

伊藤さん えっとあります。

しんすけ君 じゃあそこ移動しようか。

伊藤さん あはい

(内山に) また来るわ。

しんすけ君 いらんことしやべらんと移動するう。

伊藤さん (頭を下げる) あすいません。

内山 ああ、いえ……

伊藤さん、窓口を離れる。

内山 ああ

内山、時計を見てため息をつく。
振り返って同僚に

内山 ああ、ううん、意外とあっさり。

ああ、マジでこんといてほしいわあ

ああ、うん怖いな。刃物とか持って来たりして？

なあ？ 警備の人間こっちにも置いてほしいわ。

ていうか、さっきの電話なんやった？

あ、ああごめん、これオカンやわ。

職場かけてくんのやめてほしいわ。

まあ昔の人やしな。

さあ、なにがあつたんですかね……(と言いながら携帯

電話で電話をかける)

舞台上には、おどおどと電話をかける伊藤さんの
姿が残る。

内山の視線を少女が追っている。

② 相原さん1

内山が瓦礫の向こうの間へ視線を移す。
相原さんがやってくる。

内山はオカンと電話をしながら、相原さんを見て
いる。

内山 明日、か。

いや、休みや。土曜やし。

まあ、あの人は無理とちゃうかな、うん、嫁さんは。
いや、今選管おるから。選挙の事務。さ来週選挙やろ、それ
でいっぱいいっぱいやし。変わりの人間もおらんやし。
仕事やもん。

え、ほんで、どこの斎場になるん？

宇治てん？ てんれい会館？ 行ったら分かるな？

ほな。はい。はい。

電話を切る。

区役所屋上の非公式職員専用喫煙所。

内山 ああ……

ごめん、そついうことで。

相原さん お通夜明日ですか？

内山 うん……（携帯電話にメモをしながら）てんれい会館、

ああこんな字書くんや宇治典礼会館……
じゃあ……明後日、日曜どう？

相原さん え、告別式どうするんです？

内山 夜は空くと思うから

相原さん 精進おとしとか

内山 ああ、夕方には終わるやろ？

相原さん やっぱり日、改めましょう。

内山 え何で

相原さん いやお葬式の日にわざわざ

内山 ああ

相原さん ねえ？ でもないでしょうし。

内山 相原さんとは今いくつ？

相原さん おばあちゃん？　うちはあれですよ。終戦の年。
　　と言えよ？

内山　六十九でしょ。

相原さん　おお正解

内山　それぐらい分かりますよ。

相原さん　広島にいるんです

内山　広島

相原さん　ええ、広島

内山　お好み焼き

相原さん　ええ、原爆の

内山　ああ。

相原さん　そう、奇跡的に
　　帰るでしょ？　実家。

「うちの家のもんは皆生かされとるけえね。じゃけえ、あ
　　んたも生かされとる、いうことやけえね？」

内山　ああ。

相原さん　そうなんです。

内山　うちは八十九やったしね、死んでもおかしくないよねって
　　いう話。

相原さん　え、それ不謹慎じゃないですかね？

内山　え

相原さん　はい

内山さん　ああ、年やもん、心臓もずっと悪かったし。ってい
　　うかまだ実感ない。みたいな。

相原　そう。

内山さん　だから、不謹慎じゃないです。
　　気にせんという

相原 んーじゃあ、じゃあじゃあ、じゃあ私おごります。

内山さん なんで？ いいよ。こっちから誘ってんのやし。

相原さん いや、奢らせてください。なんか気がすまないんで。

内山 やめて、いいから。

相原さん 奢ります。私、お酒入ると面倒くさいし

内山 ああ、そうなんや。

いいよ別に。聞くよ。

相原さん 本当面倒くさいですよ？ ひかないでくださいよ？

内山 面倒くさい話は窓口で聞き慣れてるしな。

相原さん 確かに。

と言って相原、時計を見る。

内山 ああ、行って行って。

相原さん すいません

内山 面倒くさい話でも引かないから、約束するし。

相原さん ええ？ 絶対ですよ？

内山 わかったって。

行って、怒られる怒られる。

相原さん はい。

内山さん、例えば、原爆の話とかしたりしたら引いちゃったりします？

内山 ああ……え

相原さん いや、ごめんなさい。

本当、おごりますんで。

相原さん、去る。

内山 ああ。

颯爽と去っていく相原さんの姿が舞台に残っている。

内山は、相原さんの後ろ姿を見ている。

それを少女が見ている。

③ 家族たち

内山が視線を移すと
闇から内山の祖母、ばあちゃんがおぼつかない足
取りでやってくる。

そして、おもむろに横たわり、白い布を顔にかけ
る。

ばあちゃんを追うようにして、内山の姉ちゃん、
義兄の俊之さん、姪子のマリエが現れる。

葬儀場。

入棺前の親族控室。

俊之さん すごいでえ

内山 ……

俊之さん すごいわ。最近の斎場には風呂付いとんのやな。

内山 ああ

俊之さん すごいで。ゴボーっちゅう

内山 ああ

俊之さん ジェットのやつ、ゴボーっちゅう

内山 ジャグジー

俊之さん それや、それ。ジャグジー

内山 ああ

俊之さん びっくりするわあ

内山 ああ

俊之さん 気持ちよかったわあ

内山 ああ

俊之さん びっくりしたわあ

内山 ああ

俊之さん ゴボーっいうんやもん

内山 うん、それはうん

俊之さん 五段階で調節できんのやもん

内山 ああ

俊之さん 気持ちええで？

内山 ああ、うん

俊之さん で、（血まみれの額の怪我を指して）これや

内山 ああ

内山は、パンツ一丁で、血を目一杯含んだタオルを頭にあてがった、酩酊状態の俊之さんの話を聞いている。

俊之さんの高校生になる娘、マリエは、少し離れたところで、携帯電話からSNSを通じ、現状を世に垂れ流している。

そこへ、コンビニの制服を着た内山の姉、姉ちゃんが慥然とした様子で救急箱を持ってやってくる

姉ちゃん 酔っ払って風呂でコケただけやろ。アホっ

俊之さん 誰がアホやねん

マリエ ……

姉ちゃん この人、昨日からずっと飲み散らかしたはんねん。

内山 ああ

姉ちゃん もう自分でしいやっ

姉ちゃん、俊之さんの前に救急箱を投げおいて

俊之さん 誰に何投げとんねん、ボケっ

姉ちゃん あんた、いい加減にしいや

マリエ ……（スマホのカメラのシャッターを切る）

姉ちゃん、マリエの頭を叩き

姉ちゃん あんた何撮ってんのんえっ

マリエ 痛った……ちっ

姉ちゃん お茶でええの？

内山 ああお構いなく

あの、手合わせしてもらっていい？

姉ちゃん もちろん

内山、亡骸となったばあちゃんのそばに行き、
香をしようとする。

姉ちゃん 顔見たってや

内山 ああ……(亡がらの顔にかかった布をあごからか、頭か
ら少し迷って顎からめくる)

青白い祖母が、鼻の穴に綿をつめ、目をつむって
いる。

俊之さん (絆創膏を貼ろうとマリエに)おい、これ貼ってく
れや

マリエ なんでやねん

俊之さん 鏡ないし貼れへんし

マリエ トイレで貼りいや

俊之さん お前貼ってくれや

マリエ キモっ

内山 ……(眉間にしわを寄せて祖母の顔を見る)

俊之さん おい、ロウソク、火消えてまうんちゃうか

姉ちゃん (内山の隣にやってきて)びっくりしたやろ?

内山 うん

姉ちゃん 昨日の朝な、目え覚まさんかったんやて。

内山 ああ、オカンから聞いたわ

姉ちゃん 狭心症でいっぺん倒れてるやろ?

内山 うん

俊之さん おいロウソク。火消えよる言うとなねん

姉ちゃん ばあちゃんのな、お隣のご主人が救急車呼んでくれ

はったんやけどもうアカンかってん

内山 うん

姉ちゃん ヘルパーさん来てもらうようになってからはちよ

くちよくアパート覗いてはいたんやけど

内山 ……(布を戻そうと手をかける)

姉ちゃん ばあちゃん、達夫、来てくれたでっ

内山 ……(布から手を離し、合掌する)

姉ちゃん (内山に) なあ? 久しぶりやろ

俊之さん 火っ、ロウソクっ

姉ちゃん (俊之を無視して、涙をにじませて) ばあちゃんも

喜んでるわ。

内山 おお(布を元に戻そうとする)

姉ちゃん なあ? ばあちゃん嬉しいな?

内山 ……(姉が呼びかけるので、布を再度めくる)

姉ちゃん 見てみ、これ、ばあちゃん喜んでるわ。

あんた何年ぶりや

内山 三年ぐらい

俊之さん 美子っろうそく、消えるっちゅ

姉ちゃん なんえっ、さつきからロウソクロウソクってやかま

しい、達夫拜んどるがなっ

内山 あ、俺やるわ(焼香台の下のろうそくをさして)これや

んな?

姉ちゃん それそれ。ごめんやで。

内山 ……(祖母の顔に布をかけ、焼香台のろうそくを取り替

える)

俊之さん (姉ちゃんに) ロウソク消したらあかんねんぞ……

姉ちゃん なあ、ばあちゃん見て、これ、達夫、変えてくれて

はるから

俊之さん あんな、葬式は五十八万のコースやからな、もうこ

この人間に任しといたらええねん。

姉ちゃん あんた、そんなカツコで偉そうにごちゃごちゃ言わ

んといてややこしい。

俊之さん 五十八万やぞ? こっちは金払うんやさかい、全部

任しといたらええねん、そういう仕事やねん。

内山 五十八万のコースって？

姉ちゃん これ、この五十八万

内山と姉ちゃん、葬儀場の案内見る。

内山 え、この部屋使うん、オプションやん

姉ちゃん ちゃうねん、なんやばあちゃん日本セレモニー会員
つちゆうやつで積立てしてたん。そやから、この部屋かて
ただで使えるっていう

内山 こんな二十人も三十人も来るか？

姉ちゃん 知らんがな、せつかく積立ててんのやから、言うて
お母ちゃんが

内山 ああ

俊之さん まあおばあは最期まできちんとしとるわ……

姉ちゃん て言うかさ達夫、聡子さんは何なん？

内山 ああ

姉ちゃん 土曜区役所休みやろ。

内山 いや再来週に選挙あるから、出勤

俊之さん おう、あれやな、今度また自民行きよんで

姉ちゃん 聡子さんどっかの区役所の窓口の人やってるって

俊之さん なあたつくん、また自民行きよんな？

内山 あうん……

あの人今年異動してな、伏見の総務に異動になって

姉ちゃん なんえそれ

内山 総務で選挙担当してはんねん。

姉ちゃん なんの仕事してるか知りませんが、旦那の祖母や
で？ 休めるんと違うん？

内山 来週から期日前投票あるしバタバタやろ。

姉ちゃん そんなん私らもバタバタです。この人かてこの子か
て、店立たなあかんのにこうやって来てんねん、なんでか
分かるか？

マリエ ……酒飲みたいし

俊之さん ああ？

姉ちゃん わかってるやろ？

内山 ああ

姉ちゃん 「ああ」ってなんやの、ああって

うちら、店長四十八時間店離れたらアカン言われててや
で？ こないして、なんとか人のやりくりして来てんねん。

内山 わかってる

姉ちゃん 旦那のおばあちゃんやで？

俊之さん わしらは、近いとこに住んどるからやろ

姉ちゃん そんなんつ、近いも遠いもないやろ
ていうか近いやん？

姉ちゃん、と言って遺体を指さす。
内山はばあちゃんを見る。

姉ちゃん 若いころから苦勞して苦勞してやで？ 苦勞しっ
ぱなしで死にはったんやがな

聞かされたやろ、戦争中や貧乏やから言うて福島から満
洲渡つてやで？ やっと田んぼ持てた思うてたら中国人
に追いかけてやで、逃げてる最中や、子供死なしてし
もて、あんたもう忘れてもうたんちゃうやろうな？

内山 え、その話今関係ないやん？

姉ちゃん 引き揚げてきて、福島戻つてこれたと思つてたらま
た借金、夜逃げ生活や。

内山 何回その話しすんねん

姉ちゃん だからや、この話聡子さんも知ってるやろ。

なあ旦那のおばあちゃんは近いで？

内山 おう

姉ちゃん 達夫、近いんやで？

内山 ……

俊之さん、姉ちゃん、内山、ばあちゃんを見る。
マリエは携帯電話でその様子を写真に収める。

そこへ、オカンが入ってくる。

俊之さん おお、えらい遅かったですやん

オカン (不穏なその場を敏感に察して) なんやの？

姉ちゃん ……

オカン なんやの？

内山 いや

マリエ 兄弟げんか

姉ちゃん いらんこと言わんでええねん

オカン …… (途方にくれた様子で遺体を見る)

姉ちゃん なんやのお母ちゃん

オカン ……

姉ちゃん どないしたん？

オカン …… (へたり込むようにその場に座る)

マリエ おばあちゃんどうしたん？

内山 なんや

オカン ……

姉ちゃん なんやの……

姉ちゃん、尋常ではないオカンの様子を察する。

姉ちゃん ……マリエ、あんた店に弁当取りに行ってきた。

マリエ ? えー

姉ちゃん あんた、店の弁当用意できてんな？

俊之さん なにがや

姉ちゃん 発注、入れといてくれたやろな、みんな食べる弁当

俊之さん ああ? 聞いてへんぞ

姉ちゃん 言うたやん

俊之さん アホか、んなもん別に発注せんでもこの時間やった
らあるわ

姉ちゃん なあ言うたやん？

俊之さん そやから、ある、言うとんねん

姉ちゃん 会話にならんわ

マリエ あんた、店に弁当取りに行ってくれへん？

マリエ えー

姉ちゃん 頼むわ、行ってんか

マリエ えー

姉ちゃん 原付きやし、すぐやない

マリエ えー寒い

俊之さん お前な、一つ用事頼んだら一つ文句言わんと動けん
のか？

マリエ は？

姉ちゃん 行ってき

マリエ ……

マリエ、いやいや出てゆく

姉ちゃん 飛ばしたらあかんで

オカン、ばあちゃんを見る。
誰もが不穏な空気を感じている。

内山 ……なんの話やねん

オカン、意を決して

オカン あんたら……お金、ある？

一同 ……

内山 ああ……えっ？

姉ちゃん ええっ？ なになに？

俊之さん ……

オカン なあ

内山 ……えいや、金で、そらあ、え？ なんぼ？ ……つち

ゆう

オカン、突然泣き出す。

オカン 堪忍え、堪忍え

姉ちゃん ちよつとちよつと

内山 ていうか何やねん

姉ちゃん お金でなんよ

オカン ……

オカン、いくつかの紙を出す。
姉ちゃんと内山、紙を見る。

内山 ええっ？

姉ちゃん なんでえ？

内山 三百二十三万っ？

俊之さん 待て待て待てっ、なんやねん

姉ちゃん これ

姉ちゃん、俊之さんにその紙を見せる。

内山 はあ……

俊之さん ははは

一同 ……

俊之さん ……アコム、プロミス、いったい何社あるんやこれ

オカン なあどうしよお

内山 普通こんな老人に金貸さんで

姉ちゃん そや、そやつ返せるわけないやん、年金暮らしして

いる人間に三〇〇万やなんて

オカン どうしよどうしよ

俊之さん おかあちゃん落ち着きいや

なあ美子、無いんけ？ 金

姉ちゃん アホ言わんといてっ、有るわけないやろっ

内山 普通は年齢制限あって貸さんもんやけどな

内山、明細をめくる。

姉ちゃん でも実際に貸りとるがな

内山 普通は六九歳ぐらいまでで

あ、やっぱり

内山、明細を見せて

内山 これ見てみ、二〇年以上前からあちこちから借りて……

こっちは一万五千円、こっちは一万円、毎月返してるけど、

また、ほらここで十五万借りて、また一万円とか一万五千

円とか

姉ちゃん 二〇年も？

内山 これでは元金減らんわ

姉ちゃん どうしよ

俊之さん おばあ、年金もろとったんやろ

内山 まあ年金だけではな

姉ちゃん 毎月なんやかや合わせて十(万)もなかった言うて

俊之さん そら無理やわ

オカン そやからお金渡してたん

姉ちゃん え？

オカン 毎月、達夫から貰った分そのまま、ばあちゃんに渡してたんやから

姉ちゃん え？

内山、俊之さん、明細を検分する

内山 それにしても額大きいな……

俊之さん いったいなんの借金や？

姉ちゃん おかあちゃん仕送り貰うてたん？

オカン かわいそうに、お金の苦勞ばかりの人や。

内山 ああ

ここでもぎようさん借りて、四〇万てやつ

オカン かわいいそうに

俊之さん なんや四〇って

内山 んん？ 口座どうなってんのやろ？

姉ちゃん なあなあ達夫、あんたお母ちゃんに仕送りしてたん？

内山 え、うん

なあ通帳ない？

俊之さん (通帳を見つけ) ああ、これやこれや

内山 どっか払い込んでない？

俊之さん あ、振り込んだる振り込んだる。

内山 えどこに？

俊之さん ホウシヨウジで

ああこれ、おじいの納骨代やな

内山 ほなこれは、これ、六十三万、一昨年の

俊之さん またでかいな、何月や

姉ちゃん あのいくら？

内山 三月に六十三万

姉ちゃん 違うて、なんぼ送ってたん？

内山 え

姉ちゃん なあ達夫、いくら仕送りしてたん

内山 え七万

姉ちゃん ……え

俊之さん ああ、あつたつ。あつたこれや

ライフドゥ、ライフドゥ、つてなんや？

内山 ライ……ライフドゥ？

俊之さん 聞いたことないな

内山 ライフドゥって、なんか聞いたことあるような……

オカン かわいそうになあ

姉ちゃん ちょっと待って待って待ってっ

一同 ……

内山 なに

姉ちゃん 七万渡してたん？

内山 うん

姉ちゃん え、達夫お母ちゃんに七万も渡してたん？

内山 ああまあちょっとやけど

姉ちゃん 大金やん

俊之さん お前、なんやそんな

姉ちゃん なあお母ちゃんうち、聞いてないけど？

オカン ……

姉ちゃん なんで隠してんの？

俊之さん お前やめとけや

オカン ……

内山 まあ、ほら、うちは嫁さんもあれやし、子どももおらん

し

姉ちゃん うち聞いてへんっ

オカン ごめんな？ 違うんよ、これは

俊之さん いやそないなことより、おばあのこれどうすんねん

ちゅう話やろ

姉ちゃん 七万やで？ 七万。

そんな大金

俊之さん これライフドウの六十三万……

姉ちゃん もうっ！ うるさい！

お母ちゃん、うちら一緒に住んでんのに、なんでそんな

こと黙ってんのよっ

オカン なんえあんた、そんな大きい声出して

姉ちゃん 店には立たへんくせに、やれ二世帯(住宅)建ててくれ言うてやで？ おまけに光熱費に食費に一切合切全部うちとこが面倒見てんのやで？

オカン ごめんな、そやからうちかてあんたらに迷惑かけられへんと

姉ちゃん 私ら朝昼晩店の廃棄弁当ばかり食べて切り詰めてやで？ マリエかて立命館宇治(高校)行かせたかったん知ってるやろなっ

俊之さん お前もう、その辺にしとけや

姉ちゃん 考えられる？ その上にまだ金あるかて、金あるか？ てどういうことやの、考えられへんっ！

俊之さん、姉ちゃんを制そつと、腕をつかむ。

姉ちゃん 触らんといてやっ！

と、姉ちゃんがとつさに振りはらった手が、俊之さんの額の傷に当たる。

俊之さん いたっ

なにすんねんっ！

俊之さん、とつさに姉ちゃんの腹を足蹴にする。

姉ちゃん うげっ！

俊之さん あっ……

内山 ちよつとっ！

オカン あんたなにすんの！

オカン、俊之さんの頬をなぐる。

内山 おかんっ

内山、母親を止める。

腹を蹴られ、うずくまりながら姉ちゃん

姉ちゃん (コンビニ経営にかかるわびしいお金の諸々を十項目ぐらい羅列する) 人件費百四十三万、不良品三十三万、雑費八万、消耗品費八万、水道光熱費七万、清掃費二万、その他非課税雑費二万、保守修繕費二万、電話代四千元、現金過不足二千元……

途方に暮れる内山の家族たちの姿が舞台上に残る。

④ ばあちゃんといじいちゃん

そんな家族を遠目に見ていた、オッサンが経を唱え始める。

オッサン 南無喝囉怛那。哆囉夜耶。南無阿唎耶。婆盧羯帝。烁盃囉耶。菩提薩埵婆耶。摩訶薩埵婆耶。摩訶迦墟尼迦耶。唵薩皤囉罰曳。數怛那怛寫。南無悉吉慄。埵伊蒙。阿唎耶。婆盧吉帝。室佛囉愕駄婆。南無那囉。謹墀醯利。摩訶皤哆沙咩薩婆

ばあちゃん かにんない、かにんない

オッサン 阿他豆輪朋。阿逝孕。薩婆薩哆。那摩婆伽。摩罰特豆。

ばあちゃん ああ、かにんない、かにんない。

オッサン 怛姪他唵。阿婆盧醯。盧迦帝。迦羅帝。夷醯唎摩訶。菩提薩埵。

横たわっていた
ばあちゃん、立ち上がる。

ばあちゃん ああ、かにんない、よしひこおどこだあ？ よ
しひこお

ばあちゃん、誰かを探し彷徨する。

オッサンが経をあげている中、ばあちゃんの姿が、突如現れた群衆の人並みに消える。

人々は、満洲の草原の中を、慌てふためいた様子で一方向に逃げている。

銃声がする。

男 露助が来たぞおー

じいちゃん 伏せろおー

じいちゃんが声を潜めながら、あらん限り叫ぶ
そこへ、銃声が鳴り響き、人々は悲鳴をあげる。

男 声立てるでねえっ

銃声が鳴り止み、

じいちゃん そのままだあ、しゃがんで進めえ

人波は、身を屈めたまま、目的地に向かって進む。

ばあちゃん よしひこおー！ よしひこおー！

その人波に逆らうようにして、タエが叫んでいる。

男 声出すでねえっ見つかつちまうでねえか

ばあちゃん よしひこおーどこだあー

ばあちゃん、人々の静止を聞かず、叫ぶ。

同じく人波をかき分けて俊之さん、姉ちゃんの口を塞いで。

じいちゃん おめ何やってんだっ逃げねえか！

ばあちゃん 由彦がっ、由彦がおらねぐなっちまったっ

じいちゃん 背負ってたでねえかっ

ばあちゃん いねんだ、いねんだ、ああ……

じいちゃん ああどこさいっただ

ばあちゃん ああ、ああっ

二人、人波が去ったあとの草原で、息子を探す。

じいちゃん ああ殺されっちまう、殺されっちまうよお

銃声がする。

じいちゃん タエお伏せろお

ばあちゃん よしひこっ、よしひこっ

清吉、伏せるが、タエは息子を探す。
銃声。

男 逃げんべえ

先へ進んだ人波が、引き返してきて、右往左往する。

ばあちゃんとじいちゃん、また人波にもまれる。
その中で、

ばあちゃん ああっ

タエは、息子の姿を発見する

ばあちゃん 由彦っ

清吉 おおっ

ばあちゃんは、息絶えた息子を抱きかかえ、そして、蘇生させようとする。

銃声がする。

ばあちゃん ああつ、ああつ

男 逃げんべ

じいちゃん タエつ、逃げんない

ばあちゃん かんにんない……かんにんない

じいちゃん ……

人波は、銃声のしない方へと逃げていく。

じいちゃんは、呆然とするばあちゃんを連れて、無理矢理に人波の中へと連れていく。

オッサン しゃろしゃろー 娑囉娑囉。 しりしりー 悉唎悉唎。 すりよすりよー 蘇嚧蘇嚧。 ふじやーふじやー 菩提夜菩提夜。

ふどやーふどやー 菩駄夜菩駄夜……

ばあちゃん かんにんない。かんにんない。

人々が去ったあとには、今は亡きじいちゃんとはあちゃんが死んだ息子を抱え、彷徨する姿が残る。

⑤ 相原さん2

舞台上にいた相原さんが口を開く。

相原さん 私、四条にスーツ買いに来てて、試着室入ってたん

です。スカートの丈がどうも気になって、一センチ違うと印象変わっちゃうじゃないですか？ やっぱり、公務員だし、そんな足出すのはあんまり良くないですけど、でも長

いと、野暮っなくなっちゃうし、上？ もうちょい下？

とか言いながら、どうだろこうだろって店員さんと話して

ていうか、聞いてます？

安酒場。

内山と相原さんが向い合っている。

内山は酩酊している。

その向こうで、ばあちゃんが彷徨している。

内山、ばあちゃんを見ている。

相原さん そしたら二時四十六分ですよ。なんか、彼氏とかは

揺れたとか言うんですけど私全然気づかなくて、内山さん、気付きました？

内山 え、いや（うつろに、ジョッキをあおる）

相原さん ですよ？ 揺れませんでしたよね？

内山 ああ。

相原さん そしたら、彼氏が携帯見てて、やばいやばいって言い出して。あつでも今は付き合ってたなくて、当時の話ですよ？ もうね、就職してすぐ、ゴールデンウィークに別れちゃって。お互い生活変わって共通言語なくなって、っていう、新卒あるあるですよ

内山 ああ

相原さん その時は？ 何しました？

内山さんっ

内山 え（相原さんを見る）

相原さん え、地震あった時

内山 えどの地震？

相原さん いやいやいや、震災の

内山 ああ、え何してたやろ？

相原さん あ、ていうか仕事ですよね。

あ（時計を見て）まだあと一杯ぐらい行けますけど呑みます？

内山 ああ

相原さん 帰りますか？

内山 え

相原さん やっぱり、そうなりますし。

内山 え、え、なにがなにが

相原さん お身内ですもん、亡くなったらそうなりますって。

すいませーんおあいそお願いします

内山 ああ、えっいや、ああごめん。

相原さん いや、こっちがすいませんです。おばあちゃんだし

よ？ 私なら数日は落ちちやいますよ。

すいませーんおあいそっ

内山 そんな、いい話じゃないよ。

相原さん いい話？

内山 じゃないよ、どっちかって言うと、

尻から油が垂れるような、そんな話。

相原さん ……やだあ

あはーい。(店員に料金を告げられ、財布を取り出す)

内山 (とっさに財布を出して) 出すよ出すよ

相原さん 約束したんで

内山 いいって

相原さん いいですって

内山 (店員に) じゃ、これをお願いします。

……故人を偲ぶ的なことじゃないねん

相原さん ずるいっ

内山 極めて現実的な問題

相原さん 現実問題として払いますって。

内山 じゃ二千元、下さい。

相原さん あすいません(財布からお金を出しながら) あ、大

きいのしか……お釣りがります？

内山 はいはい(五千元札を受け取って) じゃ三千元(釣りを

渡す)

相原さん どうも

内山、再び、祖母の方を見る。

しかし、そこには誰もいない。

骨壺がそこにある。

相原さん、釣りを財布にしまおうとして

相原さん あのお、内山さんすいません、あと千円

内山 え？ ああ失礼(財布を見て) ああ、ごめん千円ない

相原さん お釣りもらったらでいいです

内山 ……

内山、ため息をついて祖母のいない方を見る。

相原さん、内山を見る。

相原さん グラグラしたくないな。

内山 え

相原さん なんか私、よく知ってるわけでもないのに、こういう人だっけ決めてつけるフシがあつてですね、内山さんってこう、なんて言うか、あんまり動じないというか、落ち着いてるっていうか、悟ってる？ みたいな

内山 ああ

相原さん いや、いますよ？ 顔には出ないけど、中身グラグラの人って、私わかるんですけど、けど、内山さんってグラグラしてないですもんね

内山 そうかな

相原さん わかるんです。

ていうか、実際ウチが結構中身グラグラやけえ、なんか願望混じりの勝手な印象なんじゃけど

内山 グラグラねえ

相原さん グラグラ

内山 グラグラ

相原さん グラグラしたくないですよ。

内山 なるほど、それで行くんやな

相原さん え

内山 デモに。グラグラしたくないから

相原さん そっか……言われてみればそうかもしれないですね。

内山 あれ、違った？

相原さん いや、デモに行くのは単純な理由ですよ。なにもしないよりはしたほうがいいっていう。

内山 すごいな

相原さん やめてください

内山 え

相原さん それ、すごいとか、偉いとか要らないんで

内山 あごめん

相原さん 内山さんデモとかどう思います？

内山 ああ

相原さん 「ああ」って、いったい否定肯定どっちですか？

内山 え肯定してるよ。意味有ることやと思う。

相原さん 実は、当時の彼と別れたのって、生活が変わったっていうのもありますけど、なんか急に結婚したいって言いだして、震災のあと

内山 ああ

相原さん 断ったんじゃないけど、そしたら一緒に住もうって

内山 ああ

相原さん いい大学出て、いいところに就職したわけじゃけ、これから人間を磨くんやないんって、早いわって、焦んなっ

て、せつかちかって。ウチだって社会に出ようとしとるわけじゃけえ、こん場合互いに高め合っくいこうってなるんやないん？

内山 訛ってる訛ってる。

相原さん 結局、自分の安定のために他人を利用しようとしてるんですよっ。

内山 ああ

相原さん 否定肯定どっち？

内山 えっと、相原さんは周りに対して期待値が高い、んかな
(店員に) すいませーん

相原さん え？

内山 お釣りに来うへんな

すいませーん

相原さん ええ？

内山 相原さん酔ってきたな

(店員に) あすいません、さっきのお釣り、はい

相原さん ……

内山 はい、ごめん中断して

相原さん ……

内山 あれ相原さん？

相原さん、俯いている。

内山 あれ

相原さん あの頃、テレビで何回も繰り返し返して、やってたじゃないですか。

内山 え

相原さん あの時、津波の映像

内山 うん

相原さん 彼が急にエッチしたがってきて。

もうすごい

内山 ……

相原さん テレビつけながら、延々

内山 ……ああ

相原さん ずっと

内山 ああ

相原さん 怖いからって、ねえ？

内山 ああ

相原さん これ、畜生って言うんじゃないん、って……

内山 ああ

相原さん、泣いている。

内山 あ(店員がやってきて)いえいえ、あ大丈夫ですはい(釣り銭を受け取る)
あ、千円。

相原さんは受け取らない。

内山 はい、千円

相原さん グラグラしてたらあっちゅうまに地獄に墮ちるんですよ……

内山 帰るで。

内山、相原さんを立たせて、介抱しながら歩き始める。

相原さん 地獄に落ちたくないです……

内山 ああ。

内山、置かれた骨壺を見る。

相原さんが、内山により掛かる。

少女は見ている。

⑥ しんすけ君

寄りかかる相原さんを、内山がそれとなく抱く。

繁華街のはじっこで、しんすけ君はスマホを耳に当てている

しんすけ君 へひとつひとよによかちんちん、ふればふるほどよかちんちん、みればみるほどよかちんちん、よじればよじるほどよかちんちん……

あ、お姉、久しぶりやん。そんな嬉しいことないわ。そっか、やっと行動出来たんや。遅いぐらいやわ。ほな、会おう。お祝いしようや。お願い、お願いって。あ、ちよつとごめん、またかけ直すわ。

しんすけ君は電話をかけながらやってくる。
それを伊藤さんが追いかけて、懇願するように立ちふさがる。

しんすけ君立ち止まり、伊藤さんを無視して電話を続ける。

離れた場所ではオッサンが托鉢をしている。

話しながら、しんすけ君、伊藤さんを煩わしそうに避け、オッサンに近付き、舐め回すように検分す

る。

伊藤さん、しんすけ君にすぎる。
それに反応せず、しんすけ君は持鉢を覗きこんで
オッサンを検分する。

しんすけ君、電話を切る。
伊藤さんが土下座をしようとするのを止めて、し
んすけ君。

しんすけ君 あ、そんなんいらんねん。
確かに、生きていくには行動と知恵の両方が必要やわ。
ちんかすくん。

知恵なしに行動するだけやったら餓鬼畜生と一緒やし、
知恵ばつかめぐらして逆に行動せんかったら、それは妄想
やな？

伊藤さん ……

しんすけ君 あのおっさん（僧侶）見てみ、ちんかすくん。
あれなんやと思う？ 身につけてるもんのどこにも宗
派書いてなわ、こんな夜中に突っ立ってるわて、あれは十
中八九ニセモンの坊さん、偽托鉢いうやつや。
もろた小銭は全部懐行きや。京都の道端で坊主の格好で

詐欺やて、少ない出資で最高の立地で商売しとんな。そう
だ京都に行こうや。

伊藤さん、オッサンを見る。

伊藤さん ……

しんすけ君 敬服すんな？ 利益少ない上に、あないな格好し
て、覚悟が違うな。

しんすけ君、伊藤さんを立たせて。

しんすけ君 何回も言うてるけど、うちではどうにも手強いか
ら、あんたの債権別の会社に売ってしもたから、もうここ
にはないから。その行動にはまったく意味ないねん。

伊藤さん そこをなんとか、

しんすけ君 うんごめんな、だから、多分これからは、そもそ
も知恵も行動も意味を持たへん、むしろいらん。そんな場
所にいくやろうけど、ちんかすくん頑張る。

伊藤さん ……それはどんなところですか？

しんすけ君 なあ、それが知らんねんなあ。

伊藤さん え……

しんすけ君 マクドナルドの店員は、牛をどうやって解体して、
ぐちゃぐちゃにしてるか知らんやろ。闇や。

伊藤さん ……

しんすけ君 知ってたら、なあ、あないしてほいほいハンバー
ガー投げられへんしな。

伊藤さん ……

しんすけ君 闇やな。

伊藤さん ……

しんすけ君 怖いやろ、な？

よっしゃ、ちんかすくん。俺唄歌ったろう。

と言って、しんすけ君、ひと目を憚る「となく」花
は咲く」を歌いはじめる。

伊藤さん ……

しんすけ君 (歌うのを止めて) ……あれ、なんか違わへん？

ここ難しいな、ちんかす君ちよつと歌ってみて

伊藤さん …… (「花は咲く」を歌う)

しんすけ君 あ上手いなあ

しんすけ君も入って、伊藤さんと合唱する。

しんすけ君 …… (急に伊藤さんの顔面を平手打ちにする)

伊藤さん えっ……

しんすけ君 あ、ごめんごめん、歌は続けて

伊藤さん ……は、はい(再び歌い始める)

しんすけ君 (また平手打ちする) 続けて続けて

伊藤さんは歌い続け、しんすけ君も歌いながら伊
藤さんの頬を打ち続ける。

伊藤さんは、ワンコーラスを歌い切る。

しんすけ君 おー歌いきったな、もっかいもっかい

伊藤さん ……(再びはじめから歌い始める)

しんすけ君 (頬をはたいて) 何調子乗って最初から歌ってん

ねん、サビ、サビ歌って

歌う伊藤さんを、しんすけ君は親しげに肩を抱いて連れてゆく。

しんすけ君、立ち止まり、ポケットを探り、偽雲水の持鉢に五百円硬貨を入れる。

しんすけ君 あれ、あの坊さん、臭い……

舞台上には、伊藤さんがしんすけ君に、どこかへ連れられていく姿が残る。

内山は、相原さんを抱いている。

⑥ 聡子

舞台上にいる聡子が、不機嫌そうにつぶやく。

聡子 ごめん

内山 え

美容パックをした内山の妻、聡子が座っている。内山、相原さんから離れる。

内山 あただいま。ごめん

聡子 え何が？

内山 ああ、遅うなって。

聡子 ああ

間

内山 ま、なんとか葬式終わっ

聡子 聞いたわ、さっき電話で、お母さんに

内山 ああ大変やったわ、ばあちゃんの

聡子 なんか五時には終わってたんやて？

内山 あそうそう、それからちよつと

聡子 うん

内山 精進落として大分呑んで

聡子 ああ

内山 まああんな葬式やったしなあ

聡子 ああ酔い覚まそうかなって？

内山 ああ、そうそう大変やったから
で、ばあちゃんの

聡子 さめた？

内山 え

聡子 酔い

内山 うん、だいぶ。ばあちゃんのさあ大変やった

聡子 お母さんから聞いたわ。こつちもバタバタしてるやん？

ほんまキツイしなあ、選管。聞いてたより。伏見て広すぎ
やと思わへん？ バイト足りひんし、増やそうか言うて

内山 ああ、うちとこもバタバタしてるわ。たぶん市税も街頭
啓発駆り出さ……

聡子 頭パンパンやわ

内山 ……ああ

聡子 頭パンパン

内山 まあしかし、あの歳で借金やてホンマ

聡子 ありがとうな。

内山 え

聡子 朝、洗いもんとか頼んで

内山 ああ、え、どうしたん？

聡子 いや、色々悪いな思うて

内山 まあ、忙しいやろうし

聡子 お姉さんなんか言うてはった？

内山 え？ ああ、まいつもの調子や

聡子 冷たい言うてはったやろ

内山 ああ

聡子 すいませんでした。

内山 まあ大変やったけど、金の

聡子 うん聞いてるから

内山 そう、まあでも相続放棄の方向でなんとか

聡子 (語気を強めて) うんお金のことも聞いているから、来週
週の選挙終わってからでええ？

内山 ああ

聡子 見ての通りやし

内山 ああごめん

聡子 ほな、おやすみ

内山 ああおやすみ

聡子は動かない。

聡子 え、寝えへんの？

内山 えそつちが寝るんと違うん？

聡子 疲れてるんやろ？

内山 そつちかて

聡子 おやすみ

内山 えなになに？

聡子 寝て

内山 なにそれ

聡子 ほな、ちょっと出てきて

内山 どのくらい？

聡子 朝まで

内山 おい、ふざけんや、まだここ居るうちは好きにする権
利有るやろ

聡子 ちょっと考えたいことあんねん

内山 ？

聡子 めっちゃあるやん

内山 ああ

聡子 あれやこれや色々、山積みやん、おたく出て行くまでに、
預金も分けたり、整理せなあかんやろな？

内山 そんなん、さすがにこんな仕事忙しい時に無理やろ

聡子 え、年内に出るって言うてたんと違うん？

内山 ん？ ちょっと待って言い方おかしくない？

聡子 わかってるおかしいよ

内山 なあおかしいやろ、もとは話だしてきたんそっちやで？

聡子 おかしい言うてるやろな

内山 なんでそっちがキレとんねん。

聡子 私が悪いからキレとんねんキレさせてえや、子どもがで
けへんかったらキレとんねんキレさせてえや

内山 おれは何にも

聡子 あんたは何も言うてない、そやけどあんたも…もうええ

わ……

そとみ
外見の話だけよ、もう

内山 ああ

聡子 お姉さんどうなってんの？

内山 よそのことはええやん

聡子 姉弟揃って離婚するわけにもいかんやろし

内山 まあ、なんやかんや言うてせんやろ、コンビニあるし、
マリエもおるし、家建てたばかりやし

聡子 我慢したはんねんな。

内山 現実問題

聡子 お母さん心配させるし

内山 うちのことはええねん

聡子 そういうわけにもいかんやろ

内山 そうか？

聡子 いったん親族なった以上

おたくはどうしたいん？

内山 ああ

聡子 「ああ」

内山 いや

聡子 「ああ」

内山 なんやねん

聡子 うちら確かに、役所きた人に肯定と取られても否定に取

られても困ることあるからな「ああ」。ダメも良いも言え

へん。揚げ足取られるから、とりあえず留保で「ああ」。

内山 なにが言いたいねん

聡子 おたくそうやって「ああ、ああ」で判断ぼやかしてるう

ちに、実は何も判断できんようになってしもたん違うの？

内山 アホか、お前が一方的に言い出したから呑んだだけで

聡子 はい、ほな、どうします？ 別居したい？ したくな

い？

内山 いやそっちは？

聡子 聞ってるんやけど

内山 いや、お前

聡子 はい、うちはするよ。いずれ

で、おたくはどっち？

内山 いずれでいつやねん

聡子 そやから、いろいろ落ち着いてから

内山 それ、一体いつの話？

聡子 質問に答えて

内山 ……するよ

聡子 いつ

内山 ……いずれ

聡子 だからいつ

内山 ……春。ごろには。

聡子 ああ。

内山 ああ。

じっと、内山のやり取りを見ていた少女、舞台後方の瓦礫の中へ歩み出す。

2場 内山の……

① 花は咲く

舞台後方の瓦礫。

少女の歩きまわる瓦礫の前に、一人の中年の女がいる。

内山がいつかテレビで見た記憶。

中年の女 もう逃げるっていうことと、それから自分の命の大切さ、そういうことをあの話しながら、私、ずっと頼まれたところに行って、話をしています。

いや、本当に。逃げようっていう言葉さえ出ればって。何回も思ってもあのときに戻してほしいと思う。

時間を。そしたら必ず今度は逃げます。どんなことをしても。

そう思うと今一番悔やんでるのはそれです。

でも三年経ってまあどうにかそれは少しずつ薄れて行ってるし、ただ皆んなこの辺の人たちはもう復興してるん

で、半分は風化してるかも知れません。

こういうことに対して、これを忘れてほしくないなあと思っ
て頑張っております。

ありがとうございます。

そして歌謡曲「花は咲く」が聞こえてくる。

少女が瓦礫の中を歩いている。

中年の女は首を傾げながら去る。

内山はそれを見ている。

舞台上にいる姉ちゃんが怒鳴る。

姉ちゃん やかましいっ、寝られへんやないのっ！

唄がピタリと止む。

② ばあちゃんの骨

コンビニの制服を着た姉ちゃんが、端末を持って、
発注作業をしている。

その横で、マリエも同じく母と同様発注作業をし
ている。

オカン、孫のマリエに耳打ちをする。

オカン ……

マリエ 「そやかて壁が迫ってくんのよ」って。

姉ちゃん ……

オカン ……

マリエ 「寝てたらな、こっちの箆筈無いとこの壁が、ゆっく
り迫ってくんの」って。

姉ちゃん、マリエとオカンに目を向けることなく、
発注作業をする。

姉ちゃん おはようございます。いらっしやいませー。

マリエ おはようございます。いらっしやいませー。

オカン ……

マリエ 「声が聞こえる」って。

姉ちゃん 誰の

オカン ……

マリエ 「ばあちゃんの」(と言って)？ おばあちゃん？

姉ちゃん (呆れて) はあ？

オカン ……

マリエ 「ばあちゃんがなんか言うてきてるねん」……って

姉ちゃん テレビあんな大きい音でつけっぱなしで寝るさか

いや、花は咲くうう言うて、ホンマやかましい。

オカン ……

一方、事務所にいる俊之さんは、捕らえた老いた万引き犯を尋問している。

俊之さん ワシら知らん思ってたら大間違いやで？ おじい

さん初めてちやうやろ？ ……いいや、ちゃんとカメラ、

映ってるさかいにな？

うちの店はな、ホンマやったら即、警察突き出すところな

んやで？ わかってるか？ なあ、おじいさん聞こえてるか？ ……(声を大にして)だからあ、警察う、突き出す言うてんねん。

そんな、ああ、おじいさんそれずるいわ、泣くんは反則やで……

マリエ 「ホンマに声がするん。うち、気いおかしなりそうやわ」って。

姉ちゃん それ、また鬱が出てきたんやわ。心療内科行ってき。

マリエ 「そんな冷たい。

私な、思ったん、これな、ひよつとしたらこればあちゃんが文句言うてはんのんとちやうかな？」って

姉ちゃん は？ 文句てやめて。あんだけあつた借金整理してもろて文句言われる筋合いないわ。

ていうか、おかあちゃんお願いやし、ばあちゃんの話、あの人の前でせんというや。もうあかんで、これ以上、あの人に内山のこと迷惑かけたら

オカン、俊之さんのいる方を見る。

俊之さん はいこれで拭きいや……なあ、おじいさん盗ったこれ、豆腐が一〇〇円、豆の煮物一六三元、枝豆一六八円。まあなんで豆ばっかりやねんちゆう話はええとしてや、買うても合わせて四三一円や。でもな？ 商品の値段の高い

安いは関係ないねん分かるか？ なあ、おじいさんいったいなんで盗ったんや……食べるためなんはわかるがな。いやいや湯豆腐ちやう、湯豆腐ちやう、調理法は聞いてない。(レジの方から客が呼ぶ声が聞こえて)……レジお願いしまーす。

マリエ 「美子、私な、ひよつとしたら骨のことちやうかなて思うてんねん」

姉ちゃん、手を止める。

姉ちゃん ……は？

オカン ……(うなづく)

マリエ ……(うなづく)

姉ちゃん は？ 骨？

オカン (うなづく)

マリエ (うなづく)

俊之さん レジお願いしますう！ ……あいつ一体何しとんねん……おじいさん、そのまま。そのままやで？ (慌ててレジに立ち) ……はいお待たせしましたあ

姉ちゃん 骨て、きちんととじいちゃんと一緒に納骨したやない

俊之さん はい、(タバコ) 五十三番、あ四十三番？

ながら 姉ちゃん、再び視線を端末に戻し、入力作業をし

姉ちゃん 何が言いたいん？ 先言うとかくけど、墓の話はやめといてや。

見てみいさ、春休みで学生のバイトの子ら帰省してる間、この子働かせてんのやない。もうこれ以上お金の話せんといて。

オカン ……

俊之さん え、十三番？

マリエ 「あんだだけ苦労しはった人やもん、家に仏壇もない上に、他の人のとギウギウギウ詰め納骨堂やて、死んでもアパート暮らしやなんて、可哀想やんか」

姉ちゃん お母ちゃんが言うたんやないん？ お経の一つも上げられへんから言うて、四十万払うて、あそこ納めたのやないん？ ホンマの坊さんが朝晩ちゃんと拝んでくれはるからありがたいわ言うてたんやないん？

俊之さん (声を張り上げて) ありがとうございますましたまたお越しく
越しくださませっ

姉ちゃん (反射的に) ありがとうございますましたまたお越しく
ださませっ

マリエ ありがとうございますましたまたお越しくださませえ

オカン ……

俊之さん 何やっとなねん……(と、言いながら再び老人と対峙する)……まだ泣いとんのんかいな。わかるで？ そら、困ってんのはようわかる。

そやけど困ってんのはみんな一緒。なあ？ みーんな一緒。おじいさん、わしら、豆腐に煮豆に枝豆に、こんだけの商品売ってどれだけ手元入ってくと思う？ たった六十三円や。六十三円。あとの三七七円はぜーんぶ本部に持っついていかれるん。な？ けどこれが人の看板借りて商売するいうことや、わしは文句言うたことない。なんでかわるか？

姉ちゃん そんなん自分で選んだことやない

俊之さん 自己責任や。

姉ちゃん 我慢して

オカン ……

俊之さん みんな一緒、ちゅう話や。でも、わしは一切、文句を言うたことがない。今まで一遍もやで？ なあ、おじいさん、今までも日本人は黙って、尻から油垂らしてやってきたやないか。それが美徳やないか。

オカン ……

マリエ 「うちはただ、ばあちゃんに成仏して欲しいんや、あの世でゆっくりして欲しいだけなんや」

姉ちゃん 我慢して

俊之さん なあ、聞こえてるか？

姉ちゃん 私ら、生きてんのっ

俊之さん 寝てんのかい

姉ちゃん お母ちゃん、そんな気にいらんのやったら、家、出て行ってんか。

姉ちゃん おはようございませす。いらっしやませー

マリエ おはようございませす。いらっしやませー

舞台上に、コンビニの家族たちが残る。

③ 春

相原さんの部屋。

相原さんが横たわっている。
内山は見繕いをしている。

相原さん なんで、そんな何回も何回も見るとんず？

内山 これ？

相原さん それ

内山 動画？

相原さん はい、津波。

内山 え……ほら、まる三年だから

相原さん いや、いつもけっこう見てるじゃないですか。
なんの興味ですか？

内山 興味っていうか……

相原さん ……ていうか

内山 なんだろう？

相原さん あのう……今度、一緒に関電前行きませんか？

内山 ……

相原さん よかったら

内山 え、ああ……はは、関電で、ええと、デモ？ やんなそれ。

相原さん ええ

内山 あ、そっかのはは。

相原さん はは

内山 ああ

相原さん ああ

内山 ああ、えつと……ああ

相原さん あすいません、やっぱりいいです。

内山 え

相原さん ナシ。ナシ、今の。

内山 ああ。

相原さん ごめんなさい

内山 いや

相原さん 気悪くしたでしょう？

内山 え、なんで？

相原さん いきなり重いの投げてきたなって

内山 そんなことはないよ

相原さん すいません……

内山 どうしようかな

相原さん いや、本当に、ごめんなさい。

内山 いやそんな、

相原さん 私……内山さんに嘘ついてたことがあって、嘘つい

うか、はいあるんです。

内山 ……

相原さん ……

内山 え……なに？

相原さん あの毎週金曜日、私、関電前に行ってるって

内山 うん

相原さん 実は、行ったことないんです。今まで、一度も。

内山 ……え

相原さん はい

内山 え？ ……ない？

相原さん はい。いや、行ってはいるんです。

京都駅までは行くんです。仕事終わって、四〇分位自転車乗って、駅前の駐輪場に停めて、歩いて行くんですよ。そしたら郵便局の前過ぎると、ねえ？ だんだん聞こえてきて、太鼓とか、ギター鳴らしてる音が聞こえてきて、声も聞こえてくる。、原発やめろ、再稼働反対、って。

内山 うん

相原さん そしたらなんかすごいドキドキしてきて

内山 ドキドキ？

相原さん はい、私、この人達に比べると、ものすごい軽い気持ちで来とんのやない？ って思ってきたら怖くなってきて、ていうか、もしかしたら、当事者がここにおるかもしんって思うとったら、恐ろしゅうなってきた、声がでんの。「再稼働反対、原発いらぬ」 たったこれだけの言葉がドキドキして口から出てこんのんよ。

内山 ああ

相原さん グラグラですよ。デモの人達歩道の両端で並んで、その間を仕事帰りの人達に混じって、いつ立ち止まろう、どうやって立ち止まろうって、歩いてるうちに、もう道にはデモの人達がなくなってる、ああどうしよ引き返そう、いや、それダサいなって、ああ私、ダサいな。情けないなって。で、また駐輪所から自転車出して、家帰るんです。

内山 うん

相原さん ねえ、ダサいんです。

内山 いや

相原さん だから、もしかしたら誰かと一緒にだったら、声出るかなと思っただんですけど

内山 なるほど

相原さん でも、引くじゃないですか。普通。

内山 え？

相原さん 大学の友達とか、元カレとか、ああ出たよ出た。って。

内山 言われたん？

相原さん いや、そもそも白状したことないんです。

内山 ああ

相原さん 妄想だったのは分かってんです。でも、怖くって、だから、言えなくて。ってああ、グラグラしてます。

内山、再度相原さんの手をにぎる。
相原さん、手を離す。

相原さん そういいのはいいです。

内山 ごめん

相原さん すいません

内山 ……桜咲いてるかな。

相原さん ？

内山 お花見しようか。

相原さん ええ？

内山 三角州のとことか綺麗やで
気晴らしに。

相原さん え、まあ、でも

内山 いや単純な発想で。

晴れててさ、桜咲いててさ、みんな酔っててさ、平和やで。

相原さん はあ

内山 ああ、職場の人間と会ったら気まずいからさ、いっそのこと、皆ではあつと。そっちの課の人も誘ってばあつと。

相原さん え、はあ

でもなんでまた？

内山 楽しそうにしてる人と一緒にいたら楽しくなるで

相原さん そうですかね

内山 多分

④ 見た画

窓口、渡辺さんがやってくる。

少し離れたところに渡辺さんの妹が耳を塞いで立っている。

渡辺さん はい、これお願いします。

内山 ああ、はい、ええと、こちらね、バイクの廃車……ですね

渡辺さん はい

内山 すいません、これ、隣のカウンターで承ってますので、お願いします。

渡辺さん あっちいっばいやし

内山 ああ、すいません、少々お待ちいただけますか？

渡辺さん ちょっと急いでるんですわ

内山 ああ……はい

渡辺さん ナンバープレートは持ってきたんですけど

内山 ああ、今日は免許証とかなにか身分証明書は

渡辺さん あります

内山 あとご印鑑は

渡辺さん 持ってます

内山 ではですね、そちらの記載台ですね、こちらの「軽自動車税廃車申告書」に必要な事項のご記入をお願いします。

渡辺さん はいはい。

渡辺さん、記載台へ移動し、

渡辺さん もうちよつと待ってや

ええと……

渡辺さんの妹さん (大きな声で) はいっ

内山、やや調子外れの声の方を見る。

渡辺さん、用紙に記入をしようとして。

渡辺さん ごめんなさいね、これどう書けばいいの？

内山 ああ、はい

渡辺さんの妹さん うんっ

内山 ……

渡辺さん エリ、しーでしょ？

渡辺さんの妹さん ……

渡辺さん どう書けば

内山 ああ、どれでしょう

渡辺さん この、車体

渡辺さんの妹さん うんっ

内山 ……えっと、そこには

渡辺さんの妹さん うんっ

渡辺さん くら

(内山に) すんません、これちよつと教えてんか

内山 えっと……

渡辺さんの妹さん ……

内山移動して、渡辺さんの方へいく。
渡辺さんの妹さんは内山を見ている。

内山 ああ、ここに

渡辺さんの妹さん うんっ

渡辺さん エリっあかんやろ

渡辺さんの妹さん ……

渡辺さん ごめんね、ここんところ

内山 ええ、ここにまず廃車されるバイクの名前ですね

渡辺さん はい、ジョグと。

で、これ教えて、形式てなんですか？

内山 バイクの形式か年式ですね

渡辺さん そんなんわからんわ

内山 じゃあ自賠責保険の証書とかお持ちじゃないですか？

渡辺さん あっ、ありますあります。

内山 ……(渡辺さんの妹さんを一瞥する)

渡辺さん (証書を探しながら) ええ、妹です

内山 ああ、あ……

と言って、内山、渡辺さんの妹さんの方を見る。

渡辺さんの妹さん ……

渡辺さん 今、福祉に寄ってきたとこでねえ

内山 はい

渡辺さん 作業所で絵を書いているんですわ。

内山 はあ

渡辺さん (持っていたスケッチブックを指して) これな。

あんまり普段はじつとできひんのですけど、絵は一生懸命やるんで、最近はね、こんな子の描いた絵をなんかええ言うてくれる人がおるもんで、いっぺん見てもらおう思うて……見てみはる？ (スケッチブックを開いて内山に手渡す)

内山 あはあ(黙ってスケッチブックを開いて数ページめくる)

渡辺さん お兄さんどう思う？ ……ないな

内山 ああ(徐々にページをめくる手が止まる)

渡辺さんの妹さん うんっ

渡辺さん おもしろいやろ、人の顔ばっかり書きよんねん

内山 ……（絵に見入っている）

渡辺さん なあ？

内山 ああ

渡辺さんの妹さん うんっ！

内山 えっ？（ひととき大きな声に、我に返り妹さんを見る）

すると、渡辺さんの妹さんの向こう（舞台後方）
に広がる瓦礫の中に、スケッチブックに書かれた顔
をした人びとが内山を見ている。

内山 ああ……

異形の人びとがじっと、内山を見ている。
内山も人々を見る。

渡辺さん（証書を探していたが）アカンっないわあ

内山、スケッチブックを返そうとして、挟まって
いた一枚の紙が落ちる。

内山 ……あれ、もしかしてこれちやいます？

渡辺さん あっ、そこ挟んでたんや。そうやそうや。

渡辺さんに保険証書を渡し、内山、再び瓦礫の中
を見る。

異形の人びとは彫刻のようにそこにいる。

内山（人々を見ながら渡辺さんに言う）ここに、形式名です

ね

渡辺さん はい「CE50E」と

内山 で、これが車体番号

渡辺さん はいはいはい……と

内山 あとは、ご住所とお名前を

渡辺さん はいはい……延々と顔の絵やろ？ 嫁なんかこれ、

私に似てないって言うて……（書類の記入を進める）

内山（人々を見ながら）はあ……

渡辺さんの妹さん んっんっんっんっんっんっ

内山 ……（反応して妹さんを見る）

渡辺さん もう帰りたいな？ 行こうな。

渡辺さんの妹さん んっ

渡辺さん これでええかな？

渡辺さんが内山の目の前に記入用紙を差し出し、
内山、我に返ったように、

内山 あつ、ええと、ではそちらに腰掛けてお待ちください。
(スケッチブックを返し) あ、これ、ありがとうございますま
した。

渡辺さん いえいえこちらこそ、オモロイやろ。

内山 ……ええ

渡辺さんは妹さんに。

渡辺さん 座って待っててやって。

渡辺さんの妹さん ……

舞台上に佇む渡辺さん兄妹を、内山は見ている。

⑤ 潮目

異形の人々と対峙している内山。それを見ている
オッサンと少女。

オッサンが口を開く。

オッサン 山がある。

内山 ……(オッサンを見る)

オッサン 緑色をした山がそこにある。

山に近付く。すると、山肌には色んな形をした木々たち
の存在がある。

さらに目を凝らす。木々たちが揺れている。ごくごくわ
ずかに、微かに。どうやら風が吹いているらしい。

山にわけ入り、目の当たりにする。

大樹が風になびいて枝々を大きく揺れ動かしている。そ
して、上下左右に揺れ動く枝の先では葉っぱが踊り狂って
いる。

闇の中から、区役所で働く非正規職員の大田さん、
岩山さん、坂井さんがやってくる。

そして床にレジャーシートのようなものを敷いて
車座に座る。

そこへ相原さんが加わり、内山も加わる。

花見客でこった返す鴨川の河川敷。

大田さん、岩山さん、坂井さんの三人が紙コップを合わせる。

三人 かんぱーい！

相原さん かんぱーい……

三人 かんぱーい！

相原さん かんぱーい……

三人 かんぱーい！

相原さん かんぱーい……

静寂

岩山さん いや、私い下田さんって生理的にだめなんっすよね

え

大田さん ああ、わかるう

坂井さん ていうか、わかるわかるう

大田さん なあ？ 相原ちゃん

相原さん あ、はい

大田さん 相原ちゃん、下田ぶっちゃけてどう思う？

相原さん えっと、はいあの……あまり良く知らないんで

大田さん (声が小さくて聞き取れず) なんて？

岩山さん いやあの人、呑みとか、カラオケ行っても絶対おごってくれないんっすよね

大田さん ああおごらんよなあ、ケチ、ほんまケチ。

坂井さん ていうか私、下田さんの課にLine仲間がいて、その子から聞いた話なんですけど、車買ったらしいんですけどレクサスですよ？

大田さん ああ、まじかいっ

岩山さん あれ九〇〇万するで？

大田さん ああ、うわあ、似合わんなあ、(相原さんに)なあ？

相原さん ははは

坂井さん あの顔でしょ？ あの背丈でしょ？ で、あの頭で
レクサス？ みたいな？

岩山さん いやなんか、キューピーちゃん乗ってるみたいで、
めっちゃ笑けるわら

大田さん そら金あんもん。あいつさあ、四十にもなってまだ
親と同居してんねんで

岩山さん いや、私絶対無理い、(相原さんに)無理くない？

相原さん ははは、はあ……私は

相原さんの声は、他の花見客の喧騒にかき消される。

岩山さん え？ なんて？

坂井さん ていうか聞いた話なんですけど、下田っち、実は彼
女いるんですよ？

大田さん・岩山さん えっ！ マジでー？！

坂井さん 私から聞いたって言わないでくださいよ？ なん
か、名古屋に彼女いて、休みのたびに会いに行ってるらし
いんですよ。

岩山さん いやマジで？

坂井さん 聞いた話ですよ、えらい若い子の

大田さん ああ、えいくつ？

坂井さん なんか二十歳の学生って

大田さん・岩山さん マジでー？

坂井さん ていうかJDつすよ、やばくないですか？

岩山さん いややばい、それはやばい(相原さんに)なあ？

相原さん はは、ああ

岩山さん え？ ごめんなんて？

大田さん ああ、それさ相手プロやったりして？

岩山さん いや、そうっすよキャバ嬢っすよ絶対

大田さん なぁプロやな、プロの犯行やんな？

坂井さん ていうか、それなら分かりやすいじゃないですか？

これ聞いた話なんですけど、なんかネットで？ 知り合っ
たって

大田さん・岩山さん おいおいおい

坂井さん しかも、ドリカムつながりで

大田さん ドリカムって！ 私めっちゃ好きやのに！

坂井さん ていうか、残念ですよ

岩山さん いやマジで、(相原さんに)どのへんがドリカム？

相原さん どこでしょう？

大田さん ああ……(顔と身体を探って、髪の毛を指して)こ
のへん？

岩山さん・坂井さん ドリカムー！

岩山さん いや、レクスラス乗って？ ドリカムかけて？ 新名
神ながして？ 名古屋？

大田さん 私のドリカムがっ！

岩山さん いや私、絶対無理！

坂井さん ていうかていうかこれは別の人に聞いた
話、この話には新情報があるんですけど

大田さん・岩山さん なになに？

坂井さん そんな話が出回ってますけど、実は、実は、本当は
彼女なんていないらしいんですよ

大田さん ああ……は？

岩山さん いや、え？ いないってどういう？

坂井さん ていうか、その話自体、下田さんの作り話でって
う。

大田さん ああ、なんで？

岩山さん いや、待って？ え？ 何？ 見栄張ってるってこと？

大田さん ああ、それ見栄の張り方間違ってるよね？

坂井さん ていうか、元からいない存在しない架空の彼女。

岩山さん いや怖い怖い、なんか怖い！

大田さん ああ、気持ち悪い、なんなん下田。マジで、ドリカムやめてえ

坂井さん ていうか、私から聞いたって言わないでくださいよ。

岩山さん いや、やっぱり生理的に無理っすわあ（相原さん）
なあ？

相原さん ははは……

岩山さん いや、内山さん思いませんか？

内山 え？

岩山さん 下田さん、男目線で

内山 ああ、俺はあんまり

岩山さん いや、興味ないっすか？

坂井さん ていうか、歳一緒じゃないっすか

大田さん ああ、内山さん他人に興味なさそうー

岩山さん いや、わかるそれ

その時、少し離れた花見客のグループから歓声が聞こえる。

相原さんと内山も、その方向を見ながら

岩山さん あそこめっちゃ盛り上がってますん？

坂井さん ていうか、日本人じゃないですよね？

岩山さん いや、韓国人？

大田さん ああ、中国ちゃうん？

岩山さん いや、ぽいですけど（内山に）ですかね？

内山 ああ中国の人やろ。

岩山さん いや、あれ観光客ですかね？

坂井さん ていうか、なんか怒ってませんか？

大田さん ああ、あの人ら声でかいしそう聞こえるん

岩山さん いや確かに、声でかいっすよね、中国の人ら

また歓声があがり

大田さん ああ、めっちゃ盛り上がってるな

岩山さん いや、まあ、ええんやけど

坂井さん ていうか花見が珍しいんじゃないですかね？

大田さん ああ、さあ

岩山さん いや、まあ向こうバブルやし、ええんやけど

坂井さん ていうか、中国の人って桜の枝折って持って帰るっ

て言いますよね？

大田さん えー

大田さん ああ、そんなしたらあかんわ。

岩山さん いや、まあ、ええんやけど

坂井さん で、注意したら、日本には生け花あるだろって逆ギ

レ？ みたいな

大田さん 違うやろ、それは

また歓声があがり、三人の声がかき消される。
三人は耳を塞ぎながら話す。

三人 ……

舞台上のばあちゃんが口を開く。

ばあちゃん かにんない、かにんない。

内山 …… (ばあちゃんの声に反応する)

三人、歓声がした方を見て苦笑いしながら。

大田さん そやけど、桜はまずいやろ。

坂井さん ていうか、ホテルに就職した友達とLineするんですけど、なんか、中国人の観光客ってやっぱ違うらしいですよ

岩山さん いや、知ってる。なんか、バスタオルとか持って帰るって。

坂井さん ていうか、まくらとか持って帰るんでしょ？

岩山さん いや、持って帰りすぎっ

坂井さん ていうか、あれ、朝食バイキングの盛りかた半端ないみたいなの。

岩山さん いやわかる、食べへんのやったら取んなよって話よね……

坂井さん ていうか、食べ物にしても買い物にしてもいろいろ多いですよ

岩山さん いやわかる、消費してもらおう分にはがまんできるけど、迷惑かけたらあかんやろ

坂井さん ていうか、迷惑かけてませんか？ 何かで見たんですけど、あの人が買った商品の外箱全部、空港のゴミ箱に全部捨てて行くんですよ。

大田さん 桜はアカンわ。

また歓声があがる。
闇から声が聴こえる。

三人 ……

ばあちゃん かにんない、かにんない。

内山 ……(立ち上がり、ばあちゃんの声のする方へ移動する)

オカン お母ちゃんには死んだお兄さんいたん。

戦争中や、ばあちゃんとじいちゃん貧乏やから言うて福

島から満州渡ってやで？ やっと田んぼ持てたん

ばあちゃん お上から広い田んぼと家さ貰ったはいいんだけど、後で聞いたらそれ、元は楊さんて人のもんだったんだ。オラすまねことしたなって、まんじゅうさコメさやったんだ。かにんない、かにんないって

三人 うつつるっさっ

岩山さん、冗談ほく言う。

岩山さん ちよつと内山さん、言うてきてくださいよ

内山 ああ、え……何を

岩山さん いや、うるさいですよって。

坂井さん、携帯電話でなにかを検索している。

岩山さん ちよつと、アイハラ

相原さん え？

岩山さん ちよつとあの人らに文句言ってきたや

相原さん え、ははは、え本当ですか？

大田さん ああ心配すんな、冗談やで

坂井 (スマホを繰りながら) ていうか、相原ちよつと影薄いし

岩山さん そや、ここで一発存在感示しとき

相原さん ……はあ

大田さん 冗談冗談

岩山さん 中国語で「静かにして」ってどう言うん？

坂井さん、検索した翻訳を示して

坂井さん あったこれこれ

三人、坂井さんの携帯を覗き込み、口をそろえて

坂井さん・太田さん・岩山さん シン、アンジン(請安静)？

そして、三人、小声で口々にその言葉を連呼する。

オッサンが経を唱え始める。

オッサン なむからたんのー たらやーやー 南無喝囉怛那。哆囉夜耶。南無阿唎耶。婆盧羯帝。

しふらやー ふじさとぼーやー 爍益囉耶。菩提薩埵婆耶……

舞台上にいる、これまでに登場してきた内山の記憶の中にいる人々が往来する。

怒鳴る 義弟のしんすけ君、足元にすがりつく伊藤さんに

オツサン なむからたんのー 南無喝囉怛那 とらやーやー 哆囉夜耶 なむおりやー 南無阿唎耶 ぼりよきちー 婆盧羯帝

しふらやー 爍盜囉耶 ふじさとぼーやー 菩提薩埵婆耶

しんすけ君 おどれっ、殺すぞっ！

ばあちゃん かんにんない、かんにんない。

不機嫌そうな妻の聡子

聡子 出て行って

ばあちゃんとじいちゃんは幼かった内山に言った

ばあちゃん 露助に匪賊に、追いかけてられてよ、おっかねえ

んだあ。

坂井さん・太田さん・岩山さん シンアンジン

聡子 疲れてんねん

ばあちゃん かんにんない、かんにんない。

じいちゃん だけども、オラ恨んでねえんだ

坂井さん・太田さん・岩山さん シンアンジン

姉ちゃん 我慢して

ばあちゃん かんにんない、かんにんない。

じいちゃん たっくん、おめだつて、取られたら取り返すっぺ

坂井さん・太田さん・岩山さん シンアンジン

しんすけ君 燃やすぞっ！

ばあちゃん んだ、先に、取ったほうが悪いんだ。

坂井さん・太田さん・岩山さん シンアンジン

ばあちゃん なあ、じいちゃんよお？

清吉 んだ。

坂井さん・太田さん・岩山さん シンアンジン！

相原さん、立ち上がる。

そして意を決して口を開く。

相原さん あの、それ私が言ってきました

坂井さん・太田さん・岩山さん ……

相原さん それ、私があの人達に直接言ってくるんで、やめま
せんか？

岩山さん いや、マジで？

坂井さん え、やめようよ

相原さん いや別に、その、みなさんのことがどうとか、じゃ
なくって、その、なんだろう、あの

相原さん、泣き出す。

相原さん 違うんです。ごめんなさい……

内山 え……

岩山さん いや、相原、え？

大田さん ああ……

坂井さん ていうか、ていうか……

岩山さん そんなん、ねえ？

相原さん ……

坂井さん 泣くこと……ねえ？

大田さん じよ、冗談やで？ 冗談

坂井さん ていうか、相原さんそっち系？

坂井さん・太田さん・岩山さんの三人が、苦笑い
しながら相原さんをなだめている。

人々のごった返すなか、相原さんを見ていた内山
が立ち上がる。

そして、中国人観光客の方を見る。

岩山さん 内山さん？

そして、内山、騒ぐ中国人観光客に向けて、大き
な声で

内山 あの！

三人 ……

相原さん ……

内山、顔をひきつらせながら、最大限の笑みを作
って

内山 あのお、すいません……シ……シンアンジン。

皆、内山を見ている。

オッサンが経を読み終わる。

それを少女が見ている。

2幕 新・内山

1幕の始まり同様、内山が瓦礫の方を見ている。それをオッサンと少女が見ている。

内山の視線の先には、渡辺さんの妹さんの描いたスケッチブックの異形の人々がいる。

人びとが瓦礫の中からガラクタを拾い、太鼓のように打ち鳴らす。

神楽に似たりズムに合わせて、笛が吹かれ、舞手が中央にやってくる。

そして、異形の人びとは舞を始める。

1場 内山が……

① デモに行く

舞の中、舞台の奥の暗闇から、大勢の足音がする。

その音は、徐々に増えていく。

闇から群衆の声だけが響く中、相原さんが現れる。

デモ隊リーダーの声 原発いらないつ

人びとの声 原発いらないつ

デモ隊リーダー 再稼働反対っ

人びとの声 再稼働反対っ

デモ隊リーダー 原発いらないつ

人びとの声 原発いらないつ

異形の人びとの舞う神楽の中、デモ隊の最後尾を
硬い表情で歩いている、内山と相原。

内山 相原さん、声出して

相原さん 出してますよ

内山 聞こえへんで

デモ隊リーダーの声 再稼働反対っ

人びとの声 再稼働反対っ！

相原さん 再稼働反対

内山 聞こえへんて

相原さん 内山さんだつて

デモ隊リーダーの声 原発いらないう

人びとの声 原発いらないう

内山も逡巡するが、声を張り上げて

内山 原発いらないう！

相原さん ……

デモ隊リーダーの声 原発いらないう

人びとの声 原発いらないう

内山 ほら

相原さん ……

相原さんも声を張り上げる。

相原さん 原発いらないう！

デモ隊リーダーの声 みんなで止めよう

人びとと二人 みんなで止めよう

デモ隊リーダーの声 再稼働反対

人びとと二人 再稼働反対

デモ隊リーダーの声 原発いらないう

人びとと二人 原発いらないう

デモ隊リーダーの声 再稼働反対

人びとと二人 再稼働反対

神楽、打たれる太鼓と舞が激しさを増していき、それと同調するように、声の大きさを増していく。内山と相原さん、拳を振り上げながら行進をする。

デモ隊リーダーの声 未来をつくろうっ

人びとと二人 未来をつくろうっ

デモ隊リーダーの声 再稼働反対

人びとと二人 再稼働反対

デモ隊リーダーの声 子どもを守ろうっ

人びとと二人 子どもを守ろうっ

デモ隊リーダーの声 子どもを守ろうっ

人びとと二人 子どもを守ろうっ

内山と相原さんが舞台を行進する中、聡子としんすけ君が闇から現れ、内山を見る。

聡子が胸に抱え持っていたダンボール箱を床に叩きつける。

内山は歩みを止め、聡子の方を見る。

異形の人びとは舞を止め、瓦礫の奥の闇へと消えてゆく。

② 離婚する

聡子 ほな。

内山が夫婦生活を送っていたマンションの玄関。

内山 じゃあ、ほな

聡子 はい。

内山 行くわ。

聡子 はい。

聡子 なに？

内山 忘れ物、ないかな？

聡子 ないね

内山 ちょっと確認してもいい？

聡子 なんで？

内山 忘れ物

聡子 確認したし。

内山 ……

聡子 もう、いややねん。

内山 紙、出しとくし。

聡子 はい。

内山 行くわ。

聡子 はい。

内山 あれ？ 家の鍵って、

聡子 ……

内山 渡したっけ？

聡子 ……

内山 なあ

聡子 え、独り言？

内山 訊ねてる。

聡子 テーブルの上にあっただけど。

内山 あ、もう置いてた？

聡子 うん、置いてあった

内山 そうか

聡子 はい。

内山 はい。

聡子 なに？

内山 いや、タンバリンってうちなかった？

聡子 え

内山 いや、あつたやん黄色いの

聡子 ……知らん。

内山 昔

聡子 どの昔？

内山 あの……結婚式の二次会でもらったやつ

聡子 さあ

内山 月形のやつ

聡子 知らんわ

内山 やっぱりいらんかな

聡子 うん、いらんわ

内山 いや、俺。俺が

聡子 ああ、おたくが？

内山 最近使う用事ができてきて

聡子 ああ

内山 デモ、行ってんねん

しんすけ君 ぷっ（吹き出す）

聡子 へえ

内山 そうそう

聡子 へえ

内山 でも、ええわ

聡子 ああ

内山 任せるわ

聡子 はい

内山 もし出てきたら処分しといて

聡子 うん、ほかしく

内山 黄色いやつで、こう

聡子 月形のやつやろ、棄てときます

内山 はい。

聡子、ダンボール箱を示して

聡子 ていうか、それ持ってつてくれへんかな

内山 え

聡子 これ

内山 あ俺のやったんや

内山、ダンボール箱に張られた送り状に気づいて。

内山 誰から

聡子 書いてある

内山 オカン……？

聡子 三月に

内山 ええ？ そんなん連絡ぐらい

聡子 別れたて言うといてや

内山 何ヶ月経ってんねん

と言いながら内山、箱を開けはじめる。

聡子 はよ言うといてや

内山 うん

聡子 言うといてや、ややこしいし

内山 言うよ

聡子 て言うか、ここで開けんの？

内山 え

内山、手を止める

聡子 ゴミが……

内山 棄てるし自分で

聡子 ええけど別に

内山 棄てるって

聡子 ほなどうぞ

内山、開封を再開する

聡子 ほな、そのままであえし

内山 うん、ほな

聡子、去って、瓦礫に向かい、瓦礫を物色する。

すると、身を潜めていたしんすけ君が、聡子に抱きつく。

聡子 ちよ……

しんすけ君 ……

聡子、離れようと抵抗するが、しんすけ君は離さず、姉の股間を弄ろうとする。

聡子 ……

しんすけ君 ……

聡子、しんすけ君の頬を殴り、逃れる。
そして、瓦礫の方へ行き、タンバリンを見つけ出す。

内山、箱を開ける。
中から、骨壺（骨壺の覆い）に覆われた二つの骨

壺と手紙が出てくる。

内山 なんやこれ

聡子、戻ってくる。

聡子 あったわ、タンバリン

内山 え、ああ。えこれ何

聡子 ……骨？

内山はマンションを去る。

二つの骨壺を手にした内山が舞台を彷徨する。

しんすけ君、目を輝かせて姉を見ている。

聡子 なに？

しんすけ君 あいつ、どうしてももうたん？

聡子 知らん

しんすけ君 どのスイッチ入ったか知らんけど、まあなにせよあの人は更新したんやな。

聡子 は？ 何言うてんの

しんすけ君 離婚して新・内山っていう。

聡子 おねえは更新した？ 新・聡子に。

しんすけ君 なりたいな俺も、新・俺に。

と、言ってしんすけ君は啜えていた爪楊枝の先を
人差し指に突き刺して、血玉を作って聡子に見せる。

聡子 やめて

しんすけ君 これ、何色に見える？

聡子 ……

しんすけ君 普通と比べて濃い

聡子 ……

しんすけ君 ほら、深い色してる。(さらに深く、爪楊枝を

刺す) なぁお姉、濃い……

聡子 …… (顔をそむける)

しんすけ君 お姉って、これ見て。どす赤あない？ きれいや

わ

聡子 もう帰って

しんすけ君、指先を見つめながら

しんすけ君 心配して来たったのに、っていう。

聡子 頼んでない

しんすけ君 あいつに最後一発、ゴーンと

聡子 頼んでない

しんすけ君 俺さ、何があかんかったんやろうって考えてん

聡子 頼んでない

しんすけ君 つまるところ、血が合わなかった。っていう。至

極単純。っていう。

しんすけ君、血にまみれた指先を聡子に見せる

聡子 アホ言わんといて

しんすけ君 いや、血は大事やで？

聡子 拭いてそれ。

しんすけ君、パンツに血をこすりつけながら

しんすけ君 ほななに？

聡子 ……

しんすけ君 子どもできひんかったから？

聡子 ……その話せんといて

しんすけ君 ……

聡子 (静かに) あんた、キチガイちゃうか？

あんたのせいやろっ？

しんすけ君 ……

しんすけ君、傷ついた指を口に含んで味を確かめて。

しんすけ君 呪われてんねん

聡子 あんたに死んで欲しいわ

しんすけ君 俺らみんな呪われてんねん

聡子 あんたが呪われてんねん

しんすけ君 俺あの時の子の

聡子 ちよつと

しんすけ君 あの子の墓、参ってへんから呪われ

聡子 何言うどんねんっ(取り乱して)アホなこと言わんとい
てっ

しんすけ君 いやオレがオレが

聡子 うちは参りに行ってるっ

しんすけ君 いやオレが

聡子 しゃべらんといてっ、それっ

しんすけ君 ごめん、ごめん

聡子 ……

しんすけ君 お姉ちゃん、ごめん。

しんすけ君泣く。

③ 骨を託される

二つの骨壺を抱えながら内山が同封されていた手紙を開ける。

闇の中からオカンが現れ、内山につきまといながら耳打ちする。

オカン 達夫へ。

お元気ですか？ 親子なんですから時々連絡は欲しいものです。

最近、達夫のところにはあちゃんは行ってませんか？

内山 は？

オカン 美子がコンビニに行ってる間は気が楽なので、こうして手紙を書くことができます。ずっと通っていた生花とお習字はお休みをいただいています。美子が怖いので、外にでるのが怖いです。

思えば、達夫が小さいころ、私が入院中、家をあけていたころ、美子とばあちゃんにあなたの面倒や料理に洗濯を押し付けたせいでしょうか、すっかり心の狭い大人になってしまいました。

内山 なんのことやねん……。

ばあちゃんが闇から現れ、内山の後ろを歩くオカンにつきまとう。

オカン 夜になって、床についていると、壁が迫ってきます。そして決まればあちゃんが夢に出ってきます。

ばあちゃんは謝ります。お前には貧乏させて、かんにんないと謝ってきます。かんにんない、かんにんないと言います。

福島で私が生まれてからは、満州で死んだ由彦兄さんみたいに、子供に辛い思いをさせたくない、朝も昼も夜も商売に精を出していました。でも、結局それも人に騙されてハンコをついたために、借金取りに追いかけられました。福島から東京、弘前、札幌、大阪、京都。追いかけられました。

壁が迫ってきます。

テレビをつけて、ばあちゃんの声が聞こえないように音量を上げます。おかあちゃん感謝してるから成仏してください。布団の中で手を合わせています。でもそうしていると、美子が怒ってきます。

ばあちゃんがかわいそうなので、宝昌寺の住職に無理を言って、ばあちゃんと同じいちゃん二人の遺骨を引き上げました。でも、かんにんない、かんにんないと聞こえてきます。

達夫、助けてください。美子に見つかるのが怖くて、どうしてあげることもできません。助けてください。

美子が監視してきて、壁も迫ってきますので、私は限界です。ばあちゃんが一番かわいがっていた達夫が埋葬してあげてください。

達夫、この骨、おねがいします。

内山 ええっ？

オカンとばあちゃんは内山につきまとう。

内山の側に、相原さんがやってくる。
そして、言いくそくに耳打ちをする。

④ 子どもを授かる

相原さんの言葉を聞いた内山。

内山 ええっ！

……ええー……

内山、驚く。
間の中からアナウンスが聞こえてくる。

声 広島市長……広島市議会……遺族代表……子ども代表……被爆者代表……内閣総理大臣……衆議院副議長……参議院議長……外務大臣……

相原さんの故郷、夏の広島。
平和記念式典。

内山、アナウンスが流れている間、驚きから、焦り、そして、

内山 そっか。

相原さん はい……

内山 ……そっか

相原さん ……

内山 ……そっか

相原さん ……

内山 そっかそっか……

相原さん ……

内山 マジで？

相原さん (うなづく) ……

内山 ……四ヶ月

相原さん (うなづく) ……

内山 そっか、そっかそっかそっかそっか……

内山、突如相原さんを抱擁する。

相原さん ……

アナウンス 厚生労働大臣……広島県知事……広島県議会議長……国際連合総会議長……国際連合
長……長崎市民代表……

事務総長……各国来賓代表……姉妹友好都市代表……平
和首長会議代表……広島市民代表

闇からはアナウンスが聞こえている。

聡子が内山を見る。

内山、聡子を見かえす。

聡子の側にいるしんすけ君も内山を見る。

闇から、人々がやってくる。

内山 デモ終わったら、親御さんとこ行こう……な？

相原さん ……

内山 どうしたん

相原さん (首を振る) ……

内山 え、なに

相原さん 私、その、ちょっと無理かも

内山 えっ

現れた人々、往来をしながら内山を見る。

アナウンスは止み、あたりは静寂に包まれている。

内山 それって、え？

相原さん ごめんなさい

内山 ええ？ なんで？ ちょっと、そんな、そんな、え？

内山、突如として吐き気がこみ上げる。

内山 おっ……

アナウンス 間もなく、八時十五分になります。

相原さんがアナウンスを聞いて、黙って立ち上がる。

内山 なんで？

相原さん ……なんだから、その、なんて言うか

アナウンス 鐘を合図に、原爆死没者の、冥福と平和を祈り、

一分間の黙禱を捧げます。

内山 なあ、なんで？

一人、またひとりと往来していた人々の歩みが止まっていき、

相原さん ほんと、うまく言えない

アナウンス 皆様、ご起立願います。

相原さん、闇の中を見ながら、立ち上がる。

内山 ……いや、言って、ちゃんと、そんな

相原さん ……怖いから

内山 ……怖いて、なにが

相原さん ……

内山 なにがっ？

内山、相原さんの肩を揺する。

アナウンス 黙禱おー

内山 ……なあ

相原さん ……(黙禱する)

内山 あ……（相原にならう）

静寂の中、オッサンが「ちーん」と八回、鈴をならす。

黙禱をしながら内山、相原さんの手を握る。

少女、舞台を縦横無尽に歩きまわり、黙禱を捧げる人々の表情を見る。

そして少女は内山と相原さんのもとへ行く。
繋がれた内山と相原さんの手を見つめている。

アナウンス 黙禱終わり、ご着席願います。

人々はまた往来を始める。
目を開けたものの、いぜん、手を握り合って屹立する二人がいる。

内山 怖いって、そら俺もびっくりして怖いけど、そんな、そんな、なんのために一緒になったんか分からんでしょ？

相原さん ……違って

内山 違わへんよ、な？ な？ 相原さん、デモ終わったら、
実家行こう、ほんで

相原さん アカンの、ごめん、怖い

内山 なにがよ

相原さん わかんない、怖い

内山 わかった、考えよう、ちよつと

相原さん 未来が怖い

内山 ……は？

闇から、平和宣言を読み上げる広島市長の音が聞こえる。

声 平和宣言。

その声の方を見る二人。

声 「あの日」から、幾年もの月日が巡ってきました。
一九四五年八月六日午前八時十五分、一発の原子爆弾により、その全てを消し去られた家族がいます。

相原さん 産むのが怖い

声 「無事、男の子を出産して、家族みんなで祝っているちょ

うどその時、原爆が炸裂。無情にも喜びと、希望が、新しい『生命』とともに一瞬にして消え去ってしまいました。

相原さん ここに、一緒になったり、産んだりするのが怖い

内山 ええ？

声 幼くして家族を奪われ、辛うじて生き延びた原爆孤児がいます。

相原さん 分かりませんか？

内山 いや、分かる。だから、守る

相原さん うそっ

声 生涯を通じ家族を持たず、孤老となった被爆者。

「生きていてよかったと思うことは一度もなかった。」

相原さん 分からんし

声 と、長年にわたる塗炭とたんの苦しみを振り返り、深い傷跡は今も消え去ることはありません。

相原さん 地獄に落ちとるもん同士、誰も守れんよ

内山 守る、子どもも守る。だから一緒に

声 生後八か月で被爆し、差別や偏見に苦しめられた女性もいます。

内山 一緒に、守ろう

声 その女性は結婚はしたものの、一か月後、被爆者健康手帳を持つていたことを知った途端、優しかった義母に「あんた、被爆しとるんね、被爆した嫁はいらん、

相原さん こんなに弱いのに守れんよ

声 と離婚させられました。

内山 大丈夫やし、強うなったらええやん

相原さん どうやって

声 放射線の恐怖は、時に、

相原さん どうやって？

声 人間の醜さや残忍さを引き出し、罪もない多くの市民の命を奪い、人々の人生をも一変させ、終生にわたり心身をさいなみ続ける原爆は「絶対悪」です。

内山 戦ったらええやん

声 原爆の地獄を知る被爆者は、その、「絶対悪」に挑んできています。

内山 産んで、一緒に闘たかったらええやん

相原さん 無理じゃっ

声 辛く厳しい境遇の中で、

内山 じゃあ(それで) いいっ

声 被爆者は、怒りや憎しみ悲しみなど様々な感情と葛藤し、続けてきました。

内山 もう恐れたらいい二人で

声 後障害こうに苦しみ、「健康が欲しい。人並みの健康を下さい。」

内山 恐れながら死んだらいい

声 と何度も涙する中で、自らが悲惨な体験をしたからこそ、ほかの誰も、「私のような残酷な目にあわせてはならない。」

内山 声出して体を動かそう

声 と、考えるようになってきました。

内山 一緒に炎に飛び込もう！

声 世界の為政者の皆さん、いつまで、疑心暗鬼に陥っているのですか。

内山 だめなら、死のう！

声 威嚇によって国の安全を守り続けることができると、思っているのですか？

内山 焼かれて、死のう！

声 広島を訪れ、被爆者の思いに接し、過去に、とらわれず人類の未来を見据えて信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を決断すべきではないですか？

内山 そう、果てまで行こう！

声 ヒロシマは、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現する地であると同時に、人類の進むべき道を示す地で、あります。

内山 そうっ！ 果てまで！

相原さん ……

声 私たちは、改めてここに「絶対悪」である核兵器の廃絶と平和な世界の実現に向けて力を尽くすことを誓い、原爆犠牲者の御霊みたまに心から哀悼の誠を捧げます。

内山 お願い、一緒にっ！

相原さん ……

暗闇から万雷の拍手が聞こえる。

その余韻の中、暗闇がざわつく

司会 続きまして、あいさつ

暗闇の向こうで群集がどよめいて。

司会 内閣総理大臣

デモ隊リーダーの声 原発う、やめろー！

人々 原発、やめろー

内山、叫ぶ

内山 原発、やめろー！

デモ隊リーダー 原発う、やめろー！

人々 原発、やめろー！

相原さん 原発、やめろー！

相原さんも叫ぶ

内山 原発、やめろー！

デモ隊リーダー 再稼働、反たあい！

人々 再稼働、反たあい！

二人 原発、やめろー！

人々の声がこだまする。

二人は声のあらん限り叫ぶ。

⑤ 止められない

シユプレヒコールの中、しんすけ君は聡子の足に
触れる。様々な部位を確かめるように。

その傍らで、内山は相原さんの腹に耳をあててい
る。

そして、しんすけ君、聡子の腹を探りながら。

しんすけ君 お姉、やっぱりな

やっぱりやっぱり無理に外に出さんでいい。

穢れたもんは無理して外に出さんでいい。

血がぬるぬるなって飛び出して、ここで混ざって人の
形になって、外にひり出てまた増える。穢れた生き物が増
えていく。なんとかせんと。

しんすけ君、空を仰ぐ。

手は、腹から胸の膨らみへと達する。

しんすけ君 空が鳴ってんな、穢れが広がっていくのを怖がっ
てんな。ぬるぬるぬるぬる。山の断層を伝って、川に海に、
ぬるぬるぬるぬる。

あっ！

とっさにしんすけ君、指を聡子の口の中に入れて
る。

しんすけ君 外に出てまうっ。

聡子 むっ

聡子、抗う。

聡子 むむむむむ

しんすけ君 黙れ。

聡子 ……

しんすけ君 ていう。

聡子 ……

しんすけ君 俺と、お姉、それだけでいい。

どこにもいかない、どこにも広がらない。

聡子 ……

しんすけ君 このへんでやめとこう。っていう。

聡子 ……

しんすけ君 焼かれて死のう。っていう。

聡子 ……

しんすけ君 果てまでいこう。

しんすけ君、ゆっくりと聡子の口に入れた指を抜いていく。

聡子 おえっ……（えずく）

しんすけ君 じっと、何も言わず、目を閉じて、耳を塞いで生きよう。

聡子 ……

しんすけ君 お願い、一緒に。

聡子 なんやのあんた……

そして、しんすけ君と聡子、闇の中へ向かう。

しんすけ君 （相原さんをズバツと指差して）あんたっ

相原さん、腹に顔を埋めた内山の頭をなでている。

しんすけ君 滅びると思ってるやろっ

相原さん ……(首を振る)

しんすけ君 え、そうなん？ マジで、あ、じゃ……滅びると、心配してるやろっ(指をさしなおす) つまり。

相原さん え……(首を振る)

しんすけ君 してるやろ？ してるやろ？ してるやろ？

してるやろ？ してるやろ？ してるやろ？ してるやろ？
してるやろ？ してるやろ？ してるやろ？ してるやろ？
してるやろ？

相原さん (首を振っているが、うなづく) ……

聡子 (うなずいて) 滅びてんで。もう。

相原さん ……

しんすけ君 こわっ。お姉、こわなってくるわ。……(「花は咲く」のワンフレーズを口ずさむ) ……やっぱなんか違うなあ……

しんすけ君と聡子、闇へと消えていく。

その様を見ている相原さん、

相原さん あっ(突然思い出したように、内山から離れる) ……
…(服のポケットを探りながら) ……あれ？

相原さん、闇を見る。

相原さん (内山を見て) あれ？ ……ない

内山 なにが？

相原さん ……(瓦礫の方へと駆けていき、瓦礫をひっくり返しながら何かを探す)

内山 優子、優子？

相原さん (手を止め、内山に) 最近、下の名前で呼びますね。

内山 そら、そうでしょ？ え、イヤ？

相原さん いや、近いなあって

内山 相原さんも、呼んでよ

相原さん え

内山 下の名前で

相原さん え、いやです

内山 なんで

相原さん 恥ずかしいじゃないですか？

相原さん、笑顔で答えて、また瓦礫の中を探す。

内山 優子、動いてていいの？

相原さん 心配しすぎですよ。

あ、あった。あったあった。

相原さん、瓦礫の中から手紙を見つけて、軽く腹に手を添えながら駆けてくる。

内山 ああ、走らんとき。

相原さん ああ、あったあった……

内山 なによ。

笑って相原さん、内山に手紙を手渡して。

相原さん よかった。本当に。

内山 なに

内山は手紙を開く。

相原さん (ぽつりと) ありがとうございます。

そう言って、相原さんは闇の方へと歩いていく。

て、声の届いていない内山は手紙を読んでいる。そして、

内山 ……あー……あああー……わ、わ、わ……あーす

ご、あーすごいすごい……まじかおい、あーあーあー、逃

げる逃げる逃げる、やばい、やばい、相原さんて、

やばいやばいやばいやばい、それはやばい、わ、わ、わ、

わ、あ、ああああ……相原さんっ！

内山が相原さんの方を見る。

相原さんは闇へ姿を消している。

内山 ああ……

内山、その場にうずくまる。

オッサンが、鈴を鳴らす。

姉ちゃん お母ちゃん？ うん元気してはるけど。

うん、最近またお花に習字行ってるわ。ええ薬もろてんのと違う？ 元気や。

ええ？ いや、そら相変わらずやけど私らは。なんやの？ 珍しい。気色悪い。

福島あ？ なんでまた。

そんなん、知らんわ。だから、知らんて。

ああ、ばあちゃん山の方言うてたけど。いや知らん。なんやの、急に。

骨？ なんやの、骨て。うめるて。

達夫、待つて待つて待つて待つて待つて、なんであんなところ骨あんのんさ？

何言うてんの、ちよっと待つてや、切らんといてや、お母ちゃん、お母ちゃん、なあ、おかあちゃん！

2場 内山を……

① 咎める

オッサンが、鈴を鳴らす。

オッサン なむからたんのー 南無喝囉怛那。 とらやーやー 哆囉夜耶。 なむおりやー 南無阿唎耶。 ぼりよきちー 婆盧羯帝。

しふらやー 爍盜囉耶。 ふじさとぼーやー 菩提薩埵婆耶。 もこさとぼーやー 摩訶薩埵婆耶。 もこさやるにきややー 摩訶迦墟尼迦耶。

えんさはらはい 唵薩皤囉罰曳。 しゆたのーとんしやー 數怛那怛寫。 なむしきりー 南無悉吉慄。 といもー 埵伊蒙。 おりやー 阿唎耶。

ぼりよきちー 室佛囉楞駄婆。 しふらーりとぼー 南無那囉。 なむのらー 謹墀醯利。

もこぼどーしやみさぼー 摩訶皤哆沙咩薩婆……

内山がうずくまっている。

そこへ、中年の女がやってくる。

中年の女、オッサンに喜捨し、手を合わせる。
オッサンは返礼する。

中年の女、内山に気付いて、不審に思い

中年の女 警察呼びますよっ！

内山 ……

内山、体を起こす。

内山 ……

中年の女 救急車呼びますか？

内山 ……いえ……すいません……

と、立ち上がり、内山、瓦礫の方へと向かおうとする。

中年の女 えっちよっと

内山 ……(瓦礫の中に立ち入ろうとする)

中年の女 向こうにはいけませんよ？

内山 ……(足を止め、中年の女を振り返るが、会釈をして、

また瓦礫の方に入ろうとする)

中年の女 警察呼びますよ？

内山 え

中年の女 分かっていますよね？ 入ったらダメなんです。

内山、その境界を見る。

中年の女 報道ですか泥棒ですか関係者ですか

内山 あの、すいません。違うんです。

中年の女 じゃあなに

内山 あの

中年の女 なんですか

内山 あの、墓を探しています。

中年の女 (訝しむ) ……はい、寺は？

内山 え

中年の女 どのなんていう寺の墓

内山 え、それがちよっと……

中年の女 本当に、警察呼びますよっ

内山 いや、本当に、これを……(携えた骨壺を示して)この

あたりなんです、どの寺かどの墓か分かります。

中年の女 ……

内山 内山、っていう家の墓なんです

中年の女 本当に？

内山 はい

中年の女、やや警戒を解きつつも

中年の女 どの内山？

内山 それが

中年の女 このあたりほとんどが内山ですけど。

内山 それは、はい、調べて

中年の女 屋号は？

内山 それもちょっと……あの清吉とタエと言うんですが

中年の女 清吉さん？ え、清吉さん？

内山 えご存知ですか？

中年の女 さあ

内山 ……

中年の女 寺ですか？ このあたりの？

内山 はい多分

中年の女 (瓦礫の方を指して) あっちの墓は入れなくて、
寺ごと移転しちゃって

内山 え

中年の女 入れなくて。生憎この通り。うん。

二人、奥の間を見る。

中年の女 (骨壺を指して) そちらはどなたの？

内山 あ、祖父と祖母です。

中年の女 大阪から？ ですか？

内山 京都です

中年の女 はあそれは遠いところ。

内山 あの、あっちには何があるんです？

中年の女 だから何も。(前を見て) こっちさしばらく行くと
でっかいイオンがあるけど……

内山 あの、家とか

中年の女 誰も住んでね集落があつて、そん向こうは海で

内山 そうですか

中年の女 このあたりは昔つからなあんにもなかつたんだけど、あのあたりに神社があつて、お神楽、稲刈り終わった今の時期に盛大にやるんだけど、もうみんな、あっちさこっちさいなくなつちまつたもんだから、それももう、ないんですよ。

内山 なるほど

中年の女 うちの父ちゃんも神楽やってたんです。

内山 ええ

中年の女 (手前を指して)そこに慰霊碑があつて。観音様の。

内山 あ

中年の女 四メートルもあるんだから。もし時間さあつたら手
合わせて行ってください。父ちゃんもそこにいますんで。

内山 そうなんですか？

中年の女 (笑つて)話していいですか？

内山 え？

中年の女 私、ボランティアで証言活動やってるんですよ。

内山 へえ。

中年の女 父ちゃん消防団入つてて

内山 はい

中年の女 あとから聞いた話なんだけど、(笑つて) まあ本人
から聞くわけいかなから。

あの日、津波来るからつて水門閉めに行ったんだけど、あ

の波でしょ？ 水門なんかこう、簡単に越えてしまつて……そのまんま。

地震来たら津波さ来るから水門閉めにいけつてお役所にね、言われてたから行つただけど、いざ行つてみると停電してスイッチが動かねえもんだから、手動で閉めなきゃいけね。でもその時まで誰もこうハンドル使つて締めるやり方教わつてなかつたんだ。

でも父ちゃんたち頑張つて、手間取りながら、なんとか、必死にやり方探して、なんとか、なんとか閉められて、さあ俺達も逃げんべつて、逃げてる最中、車が流されてそのまんま。(首を振る)

内山 はあ……

中年の女 はじめつから水門がダメになるの分かつてたら、助かつたかもしれせん。逃げんべつて。

中年の女 みんなみんな、あんな大事になるなんて思つてなかつたから。携帯に電話して「父ちゃん、逃げんべ。」何回も思つてもあのときに戻してほしいと思います。時間を。そしてたら必ず今度は逃げます。どんなことをしても。

内山 はい。

中年の女 (笑つて) というような話です。

内山 ありがとうございます。

中年の女 水門は、国のもんだから、国が作る。作る。作る。作るだけ作つて、管理する予算は組まねえもんだから県にたらいまわし、でも、県にやお金がない。でつて言うんで、地元いたらいまわしです。

父ちゃん頑張つたのに、波は水門越えるし、さらわれるし、ねえ……

内山 お察し、します。

中年の女 (笑つて) こんな話、ボランティアではできませんけれどね、父ちゃん死んじまつて、子ども、高校二人に中学一人抱えて、弔慰金一二〇〇万ていうのはどうも。
あの、お子さんは？

内山 ……いえ

中年の女 水門閉めに行つて、お国に捧げた父ちゃんの命、一二〇〇万円。あんまりじゃないかつて文句を言つたらこう返されました。「合理性にかける」つて。

私、辞書で調べてみました、合理って言葉。そしたらこう書いてありました。「物事の理屈に合っていること」って。

内山 ……

中年の女 (境界を示して)これ。この境い目めはなんの理屈？
こっちは安全で、ここからは安全じゃない境い目。ここから
あっちの人は保障もらえて、ここからこっちの人はもらえ
ない境い目。放射能には境い目も何もあつたもんじゃないの
にねえ。何の理屈に合わせてるんでしょう？

内山 ……

中年の女 ねえ？

って、ぼやきながら、最近子どもたちとこれ、やってま
す。

中年の女、舞いはじめる。

中年の女 タンタコタンコ、ターンコタンコ。タンタコタンコ、
ターンコタンコ。

内山 ？

中年の女 (内山をはたいて)そんな顔で見ないでよ。これが
神楽。父ちゃんがやってた神楽。

中年の女、再び舞いはじめて

中年の女 タンタコタンコ、ターンコタンコ。タンタコタンコ、
ターンコタンコ。って。これが「種まきの舞」。田んぼの種
を撒く踊り。演ってみる？

内山 いや私は

中年の女 なに

内山 踊るとか

中年の女 気取ってないで

内山 いや別に気取って

中年の女 いい？ いきますよ？ タンタコタンコ、ターンコ
タンコ。タンタコタンコ、せーの。

中年の女につられて、内山、動いてみる。

中年の女 タンタコタンコ、ターンコタンコ。タンタコタンコ、
ターンコタンコ。タンタコタンコ、ターンコタンコ。タン
タコタンコ、ターンコタンコ。とまあこんな感じですよ。

内山 はあ

中年の女 しかしあなた、絶望的に下手ねえ。

内山 あすいません。

中年の女 冗談冗談。ま、そんな感じ。

……えっと、お話を聞いていただいてありがとうございますま
した。

内山 いえこちらこそ、ありがとうございます。

中年の女 私はこれで

内山 お元気で

中年の女 ああ、がんばってって、言わないんですね。

内山 え？ あはい。もう十分がんばってらっしゃるようす
し。

中年の女 (笑って) ……じゃあ

中年の女、去っていく。

② 諫める

中年の女と別れたまま、はにかんでいる内山、

内山、踊りを踊ってみる。

内山 タンタコタンコ、ターンコタンコ、ん？ タンタコタン
コ、ターンコタンコ、

しかし、うまく踊れない。

表情をなくし、そして瓦礫の中へと踵をかえす。

オッサン 行く？ 行きますか？

内山 はい、えっと……お話を聞いてもらって、ありがとうございます。
ございました。

オッサン いえ

内山 少し、気分よく、行けそうです。

オッサン それは何よりです。

えー、仏教にはこんな考え方があります。死んだあとの世界で六道という概念があつて

天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道。まず一番初めの天道。ここは、どういう場所かといいますが、天人の暮らす世界で

内山 すいません、その話長くなります？

オッサン あれ、こういうのいららない？

内山 骨も埋めてやりたいですし

オッサン いららない？

心のよりどころがあるのはいいことですよ？

内山 そういう理屈は、わかってます。

でも理屈が通らないから、みんな困ってるんです。

オッサン あなたが骨を埋めて、向こうに行ってしまう理屈は

内山 通りますよ、ただの頼まれごと、野暮用ですよ。

オッサン えー、人は、そうやって、誰かから

内山 (遮って) すいません「人は」とか、そういう目線はいりませんので。

内山、闇を見る。

オッサン ……。

オッサン、躊躇なく瓦礫の中に入っていく。

内山 あ……

オッサン じゃあ、最後に俺目線の話します。

内山 ……

オッサン 俺はケチで愚図な盗人です。

ケチなっていうのは、お金に変えられるものなら何でも盗む、節操のない盗人という意味です。愚図というのは文字通り、前科持ちという意味です。

会社倉庫とか、空家とか、人の住んでいないところに入って盗んだものを、お金に変えて、吞んで、食って、遊んで、また盗んで、お金にかえて、売って、吞んで、食って。

震災のあと、たくさんの空家ができました。

俺はチャンスだと思っていながら、捕まるのも怖いし、放射能も怖いので、ニュースであまり言わなくなつて、ほとぼりが冷めてから向かいました。噂で聞いた通り、すでに、たくさんの同業者が入ったあと。震災のあとすぐに来る勇気もなく、グズグズしていた自分に嫌気がさしました。

荒らされていない場所を探して、人気のないところに車を走らせていると、ちいさな集落がありました。田んぼがあつて、古い家々がありました。他の町で見た光景と同じ、そこは誰も住んでませんでした。はい。

(境界を示して)家の敷地と道路の間には、僕のような怪しい人間を入れないための、頑丈にできた格子状のバリケードが張られていました。

(ひよいっと境界をまたいで)バリケードを越えて、家の方へと進みました。扉には他の家と同じように、警察が残っていた「異常ありませんでした」という日に焼けた張り紙がありました。

俺は入りやすそうな窓を探して、窓を割つてその家の中に入ってみました。

オッサン、瓦礫の中に分け入る。瓦礫の一つを拾う。

オッサン やはり俺は愚図でした。

(瓦礫を一つ一つ検分しながら)その家はどこかに避難したらしく、大したものは残っていませんでした。

雨漏りで天井が剥がれて、畳がカビていました。ネズミの糞がたくさん転がっていました。

筆筒や引き出しには、ガムテープの上にカタカナで廃棄と書かれた印があちこち張られてありました。

台所に行きましたが、やつぱりネズミの糞だらけでした。棚の扉、引き出しを開けました。空っぽの冷蔵庫を開けると、嫌な匂いがして、絶望的な気持ちになって、床下の収納も開けてみました。

オッサン、あちこち動き回り、瓦礫の中をひっくり返す。

オッサン ん？ (瓦礫の中に何かを見つける) ……ん？

ん？ ん？

するとそこには、梅干しがありました。

家の人が残っていた梅干しの瓶です。数えてみると赤い汁に浸った梅干しが一、二、三、四、五……六つだけ、底に残されていました。

(瓶の蓋をあけて、梅干しをつまんで口に放り込む仕草

をして) ……うー! (すっぱい)。

続いて二つ、三つと口に入れ、俺は一気に六つの梅干しを口に放り込みました。うー! (すっぱさに大いに顔を歪める) 俺は、口いっぱい梅干しを頬張りながら、他にないか探しました。

オッサン、また瓦礫をひっくり返し、次に冊子状の瓦礫を見つける。

オッサン すると、電話台の上に残された家計簿に目が止まりました。

(冊子をパラパラと開ける) 手にとって家計簿を開いてみると……ん?

朽ちた冊子が崩れ落ちる。オッサン、その紙片を手にとってみる。

オッサン たくさんのレシートが挟み込まれていました。どうやら、この住人はずぼらな人だったようです。

闇の中から、異形の人びとがレシートの購入項目と金額を口にしながらやってくる。

オッサン リッター九十八円のガソリン、イオンで買ったランドセル九八〇〇円、日曜日に大量に買い込んだ食材七三八

〇円、ハイライトのカートン四一〇〇円……。

(手にした紙片を撒き散らし) そう、そうそうそう。口の中をよだれだらけにして、俺はレシートをあさりました。

異形の人々、次々とレシートの項目を口にしながら現れ、瓦礫の中を家に見立てて、生活を模写しはじめる。

オッサン 息遣いでした。そこに住んでいた人々の息遣いでした。

オッサン そう、そうそうそう。すると、出てきたんです!

人びとが口々に、レシートを読み上げるなか聞こえる項目たち。

異形の人 ……ウメボシウアカシソーキログラム、六二〇円。

異形の人 テンネンノアラジオー・五キログラム、三一〇〇円。

異形の人 カジツシユホゾンビン六リットル、一〇四〇円……

オッサン あー！ つながった！ 俺の口と舌がつ、名も知らぬ人につながったっ！

そう、そうそうそうそうつ、聞こえるっ、息遣いがっ。見えるっ、営みがっ。もう、もうもうもう二度と永遠に、取り戻せない生活っ！

内山 ああ

異形の人びと うんっ

オッサン あー踊ってる！ 踊ってる！ 六つの種が口の中で踊ってる！ 鎮まれ鎮まれと俺は容赦なく種を噛みくだくっ！

内山 ああ

人びと うんっ

オッサン ぐっ！ 天道。ぐっ！ 人間道。ぐっ！ 修羅道。ぐっ！ 畜生道。ぐっ！ 餓鬼道。ぐっ！ 地獄道っ！
こんなもの残してどこにいったっ？

内山 ああ

人びと うんっ

オッサン 血まみれだ、口の中は血まみれだ！ままならない、ままならない、四苦八苦でままならない

内山 ああ

人びと うんっ

オッサン これが人間かつ、そうだこれが人間だ！

べっ！ （種のからを吐きだす）
……（息を弾ませて）口の中は血まみれ、血まみれ、血まみれ。そんな中で俺は、見つけたんです。口の中に、この……

オッサン、袈裟の中から、大事そうにティッシュの塊を取り出す。

内山 ……（それを見る）

人びと、オッサンの周りに集まってくる。

人びと ……（オッサンの手のひらを見る）

オッサンは、内山はじめ、集まった人だかりに、ティッシュの塊を、一枚一枚丁寧に解いて見せる。

オッサン 「阿」は万物の始まり。

内山 ああ……

人びと うんっ

オッサン 「咩」は万物の終わり。

人びと うんっ

オッサン 終わり来て、また始まる……

すべて解かれたくしゃくしゃのティッシュの上に、
小さな赤い玉がある。

オッサン 梅干しの種、種のそのまた中にある、核です。

人びと うんっ

オッサン これが俺の仏さまです。

人びと うんっ

オッサン 私は新しくなりました。

人びと うんっ

オッサン (梅干しの核を差し出して) 内山さん、あなたはど
う新しくなれますかっ！

オッサンと人びと、内山を見る。

しかし、そこに内山はいない。

オッサン えっ……

靴、時計、財布、携帯電話、そして、骨壺を残し
て忽然と消えている。

オッサン ……マジか？

オッサンと人びと、内山を探すがどこにもいない。

少女だけが、内山の去っていった闇を見ている。

人びとは、呆気にとられつつ、釈然としない様子
で、キョロキョロと内山を探しつつ、一人、また一
人、闇へと消えていく。

オッサンと、少女だけが舞台に残っている。

オッサン ……(内山の遺留品に目を向ける)

オッサン、携帯電話と時計を手取る。そして袈裟の中にする。

オッサン、財布から金とカード類を抜き取り、袈裟の中にする。

オッサン、骨壺を手に取り、瓦礫の中に放り投げる。

そして、オッサンは去っていく。

それを少女が見ている。

おわり

■上演記録

演劇計画Ⅱ―戯曲創作― 柳沼昭徳

二〇一五年一〇月二～五日

於・京都芸術センター講堂

出演者

今井美佐穂／岡田怜奈／小野亮子／柏木俊彦
加藤和子／河波哲平／日下範子／黒木優介
桑折現／コタカトモ子／阪本麻紀／崎田ゆかり
澤雅展／志田なおき／鈴鹿暁美／住吉山実里
たなべ勝也／西村貴治／野村明里／長谷川湧
福井菜月／堀井和也／本間広大／松岡咲子
美輝明希（五十音順）

演出 柳沼昭徳

舞台監督 井上知也

照明 魚森理恵

音楽 中川裕貴／山崎昭典

音響 齋藤学

美術 杉山至

宣伝美術 清水俊洋

メインビジュアル 横田勲

主催 京都芸術センター

初版 二〇一五年一〇月

改定 第四稿 二〇二〇年一月